

平成 20 年度

掛之上遺跡 66・69・71・78

— 写真図版編 —

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 20 年度

掛之上遺跡 66・69・71・78

－ 写真図版編 －

2009

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成20年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、^{かけのうえ}掛之上遺跡の第66・69・71・78次発掘調査報告書写真図版編（まちづくり交付金民間築造推進事業分報告書）である。ただし、区画道路の調査区と一体化している第69・71・78次発掘調査区については区画道路の調査区を含めて報告した。なお、第66次発掘調査区は平成19年3月に終了したもので、平成19年度の報告書に掲載が不可能なものであったため、本年度分に含めて報告する。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の杉山典克、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、奥野山誠の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影し作成したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

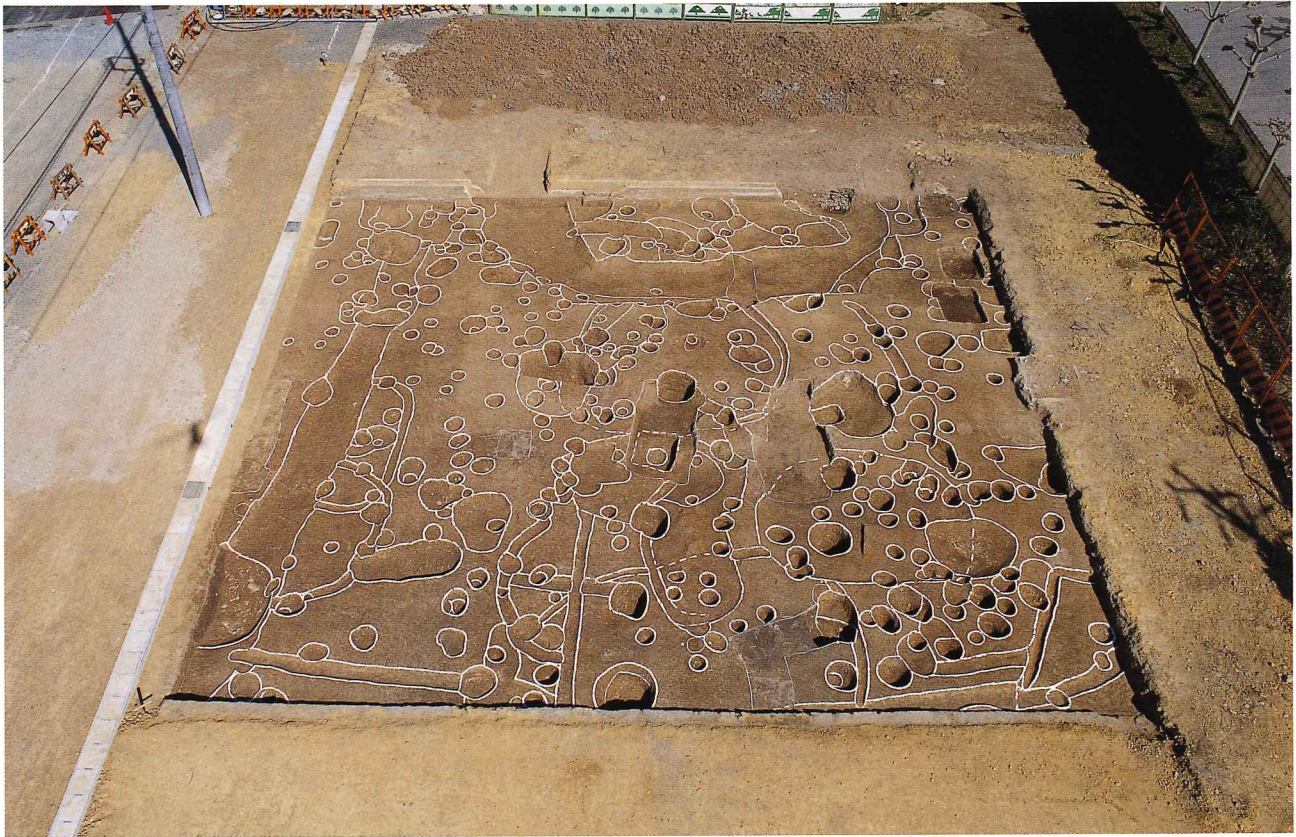
写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第66次発掘調査区空中写真全景 (2) 第66次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版2 (1) 第69次発掘調査区空中写真全景 (2) 第69次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版3 (1) 第71次発掘調査区空中写真全景 (2) 第71次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版4 (1) 第78次発掘調査区空中写真全景
(2) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景
- 図版1 (1) 第66次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第66次発掘調査区空中写真全景
図版2 (1) 第66次発掘調査区空中写真全景 (2) 第66次発掘調査区全景
図版3 (1) S B 9 (2) S B 10
図版4 (1) S B 9・10空中写真 (2) S B 10炉跡
図版5 (1) S B 11 (2) S B 12
図版6 (1) S B 12炉跡1 (2) S B 12炉跡2
図版7 (1) S B 14 (2) S B 15
図版8 (1) S B 15炉跡 (2) 南側拡張区全景
図版9 (1) S B 16 (2) S B 16炉跡
図版10 (1) S B 46 (2) S H 46 a 炉跡
図版11 (1) S H 21空中写真 (2) S H 21空中写真
図版12 (1) S H 21 S P 124 土層 (2) S H 21 S P 99
図版13 (1) S Z 2空中写真 (2) S Z 2
図版14 (1) S Z 2南西コーナー (2) S Z 2南溝土層
図版15 (1) S Z 2南溝出土土器 (2) S K 25
図版16 (1) S K 26 (2) S K 27・28
図版17 (1) S K 30・31 (2) S K 33
図版18 (1) S P 184 (2) 調査区北壁中央土層
図版19 (1) 重機による表土掘削作業 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と写真測量風景
図版20 (1) 第69次発掘調査区空中写真全景 (2) 第69次発掘調査区空中写真全景
図版21 (1) 第69次発掘調査区全景 (2) 第69次発掘調査西側拡張区全景
図版22 (1) S B 17 (2) S B 18
図版23 (1) S B 18 (2) S H 22
図版24 (1) S H 22 (2) S H 22 S P 1
図版25 (1) S H 22 S P 1 土層 (2) S P 25
図版26 (1) S D 32 (2) I 区西壁中央土層
図版27 (1) 重機による表土掘削 (2) 人力による作業風景
図版28 (1) 第71次発掘調査区空中写真全景 (2) 第71次発掘調査区空中写真全景
図版29 (1) 第71次発掘調査区全景 (2) 第71次発掘調査区全景
図版30 (1) S B 1 (2) S B 12
図版31 (1) S B 13 (2) S B 13かまど
図版32 (1) S B 13貯蔵穴 (2) S B 14

- 図版33 (1) S B15 (2) 焼土1
- 図版34 (1) S H5 空中写真 (2) S H5 空中写真
- 図版35 (1) S H5 空中写真 (2) S H5 S P85
- 図版36 (1) S H5 S P85土層 (2) S H5 S P96
- 図版37 (1) S H5 S P96土層 (2) S H6
- 図版38 (1) S D4 (2) S D7
- 図版39 (1) S D7土器出土状況 (2) S D7土層
- 図版40 (1) S D7 焼土 (2) S D8・18
- 図版41 (1) S K25・32 (2) S K26
- 図版42 (1) S K27 (2) S K28
- 図版43 (1) S K30 (2) S K31
- 図版44 (1) 北壁土層 (2) 重機による表土掘削
- 図版45 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と写真測量風景
- 図版46 (1) 第78次発掘調査区空中写真全景 (2) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景
- 図版47 (1) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景 (2) 第78次発掘調査区全景
- 図版48 (1) 第78次発掘調査区全景 (2) 第78次発掘調査区南端空中写真全景
- 図版49 (1) 第78次発掘調査区南端空中写真全景 (2) S B2
- 図版50 (1) S B2 壁溝土層 (2) S B10
- 図版51 (1) S B16 (2) S B17
- 図版52 (1) S B17かまど (2) S B17貯蔵穴
- 図版53 (1) S B18・23空中写真 (2) S B18・23空中写真
- 図版54 (1) S B18・23 (2) S B18
- 図版55 (1) S B18かまど (2) S B18貯蔵穴
- 図版56 (1) S B18貯蔵穴1土層 (2) S B20
- 図版57 (1) S B20炉跡 (2) S B21
- 図版58 (1) S B21貯蔵穴 (2) S B23
- 図版59 (1) S B23炉跡 (2) S B24
- 図版60 (1) S B24炉跡 (2) S B25・27
- 図版61 (1) S B26 (2) S B26炉跡
- 図版62 (1) S B28 (2) S B52
- 図版63 (1) S H4 (2) S D8・S K34
- 図版64 (1) S D18 (2) S D19
- 図版65 (1) S K30 (2) S K33
- 図版66 (1) S K35・S K37 (2) S K38
- 図版67 (1) 調査区東側南壁土層 (2) 人力による遺構調査

※表紙写真 第78次発掘調査区空中写真全景（弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が一部切り合って検出された。弥生時代後期の竪穴住居は楕円形、古墳時代後期の竪穴住居は方形で北壁にかまどをもっていた。東より）

写真図版



(1) 第66次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代初頭の方形周溝墓、古墳時代後期の竪穴住居、奈良時代の掘立柱建物が見られる。南より)



(2) 第66次発掘調査区空中写真全景
(北端に古墳時代初頭の方形周溝墓、大きめの掘立柱建物は奈良時代に該当する。上が北で、真上より)



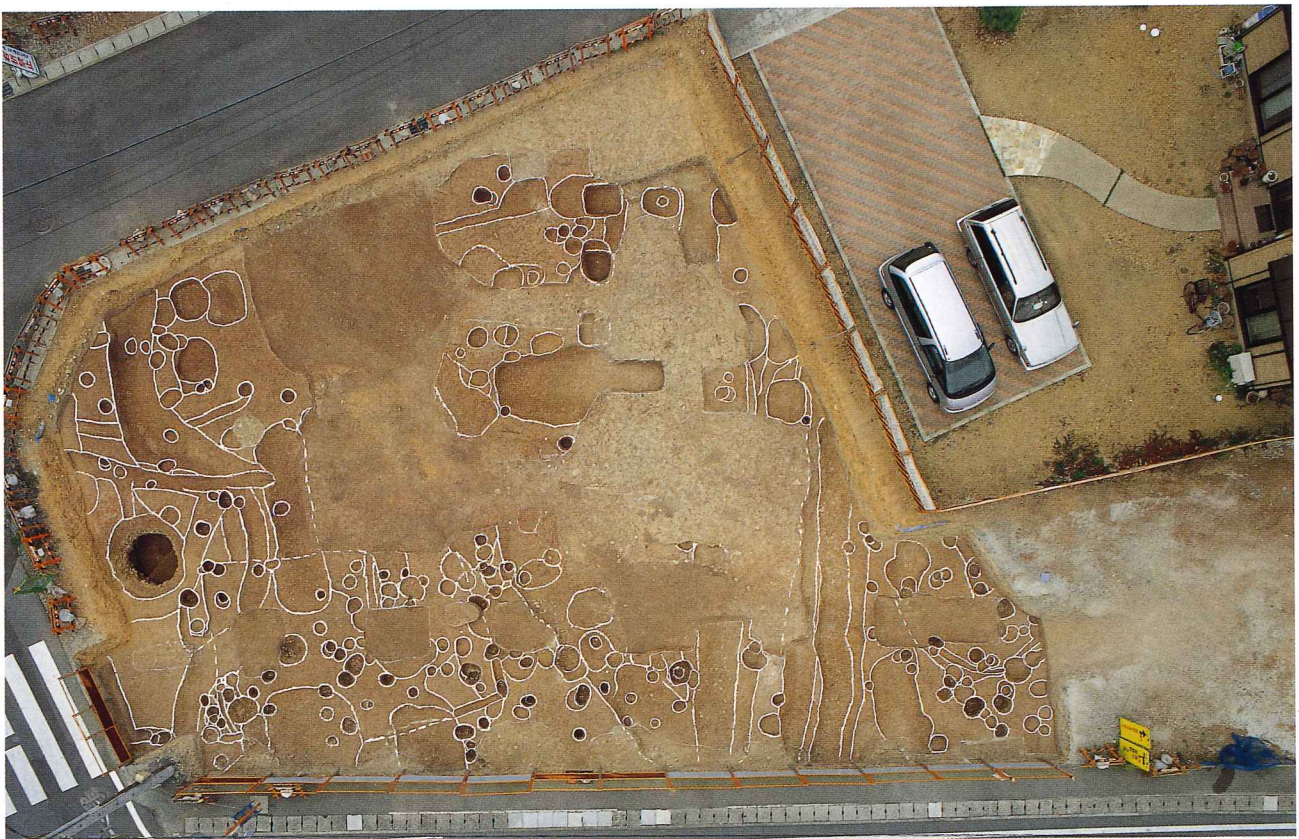
(1) 第69次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居と、奈良時代の掘立柱建物が検出された。西より)



(2) 第69次発掘調査区空中写真全景
(遺跡の東端に近い調査区であるため、遺構の数は少ない。上が東で、真上より)



(1) 第71次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代後期の竪穴住居、奈良時代の掘立柱建物、江戸時代末期の区画溝が見られる。北より)



(2) 第71次発掘調査区空中写真全景
(後世の攪乱が多数見られるが、遺構の数は多い。上が西で、真上より)



(1) 第78次発掘調査区空中写真全景
(第71次発掘調査区の東・北に隣接する調査区である。北側は竪穴住居が密集し、南側については江戸時代末期の溝が多数見られる。北より)



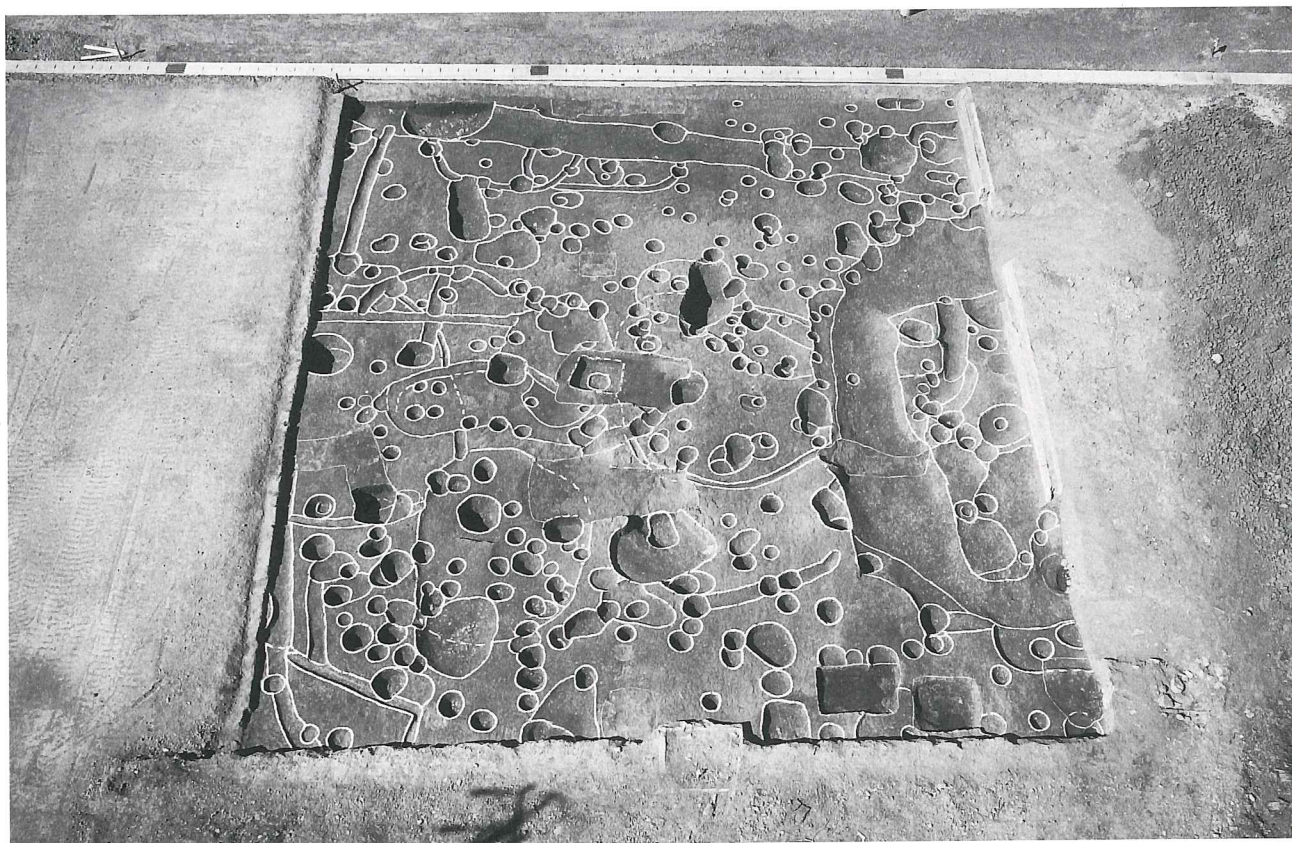
(2) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景
(弥生時代後期の竪穴住居や土坑、古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物などの多数の遺構が検出できた。集落の住居密集地域と見られる。南より)



(1) 第66次発掘調査区空中写真遠景
(左手に原野谷川、右手は小笠山北麓、が見える。手前の住宅地の半分が
掛之上遺跡の立地する段丘である。遠くの丘陵地は栗ヶ岳である。西より)



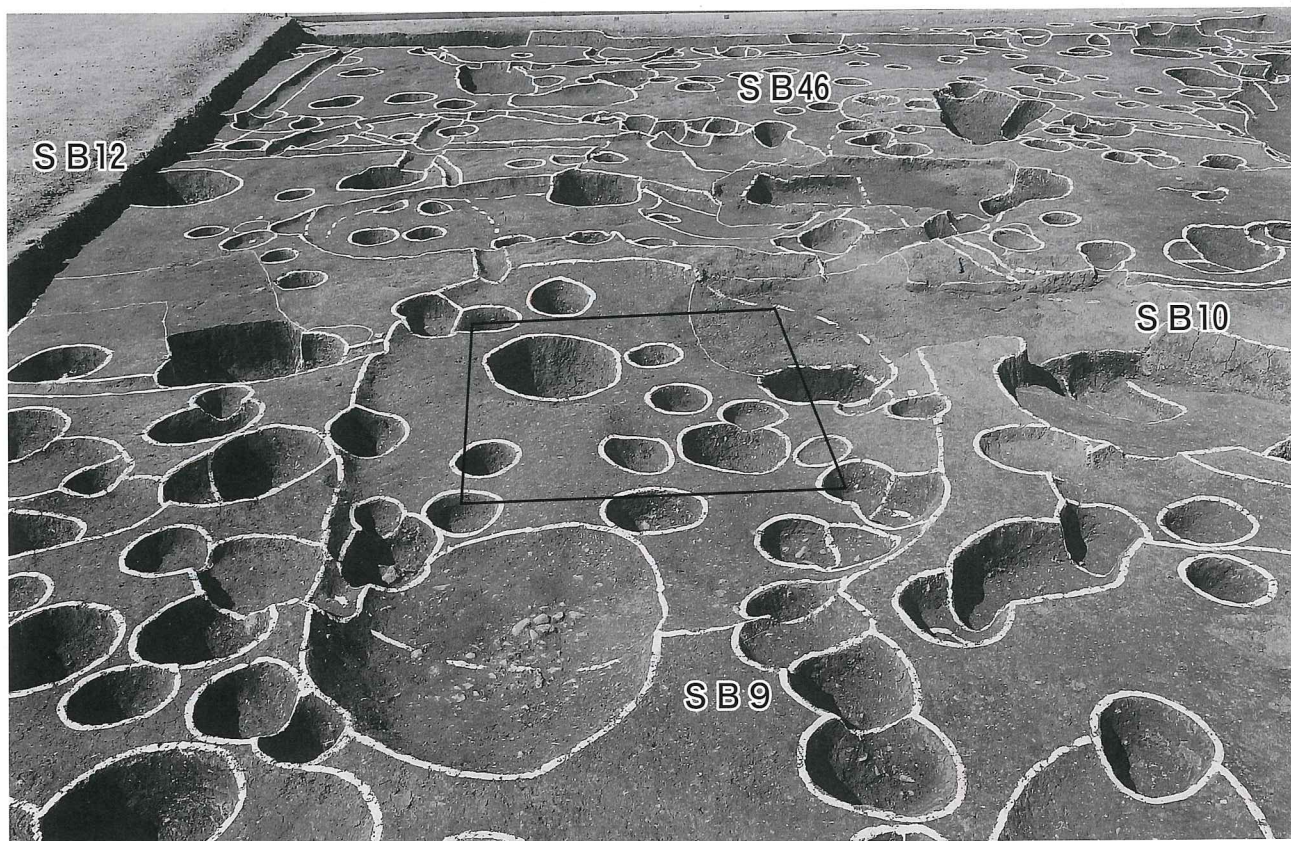
(2) 第66次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代の竪穴住居と土坑が多数見られる。
手前には古墳時代初頭の方形周溝墓が半分検出された。北より)



(1) 第66次発掘調査区空中写真全景（やや大型の掘立柱建物は奈良時代の郡衙関連建物と見られる。東より）



(2) 第66次発掘調査区全景（南より）



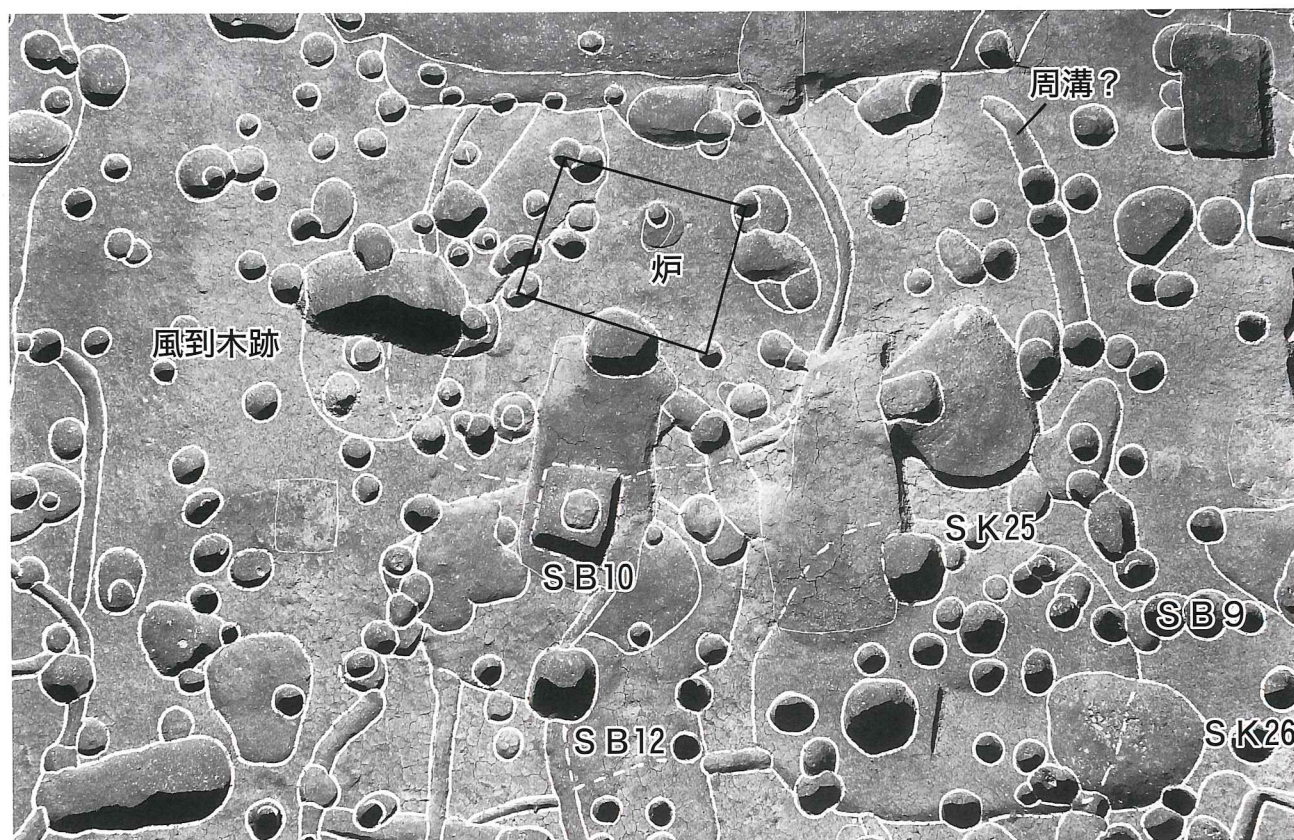
(1) SB9

(弥生時代後期の小型の竪穴住居で、楕円形である。掘方が深いため壁溝は検出できなかった。東より)



(2) SB10

(弥生時代後期の竪穴住居で、楕円形である。東側の壁溝は幅がやや広いため周溝の可能性はある。東より)



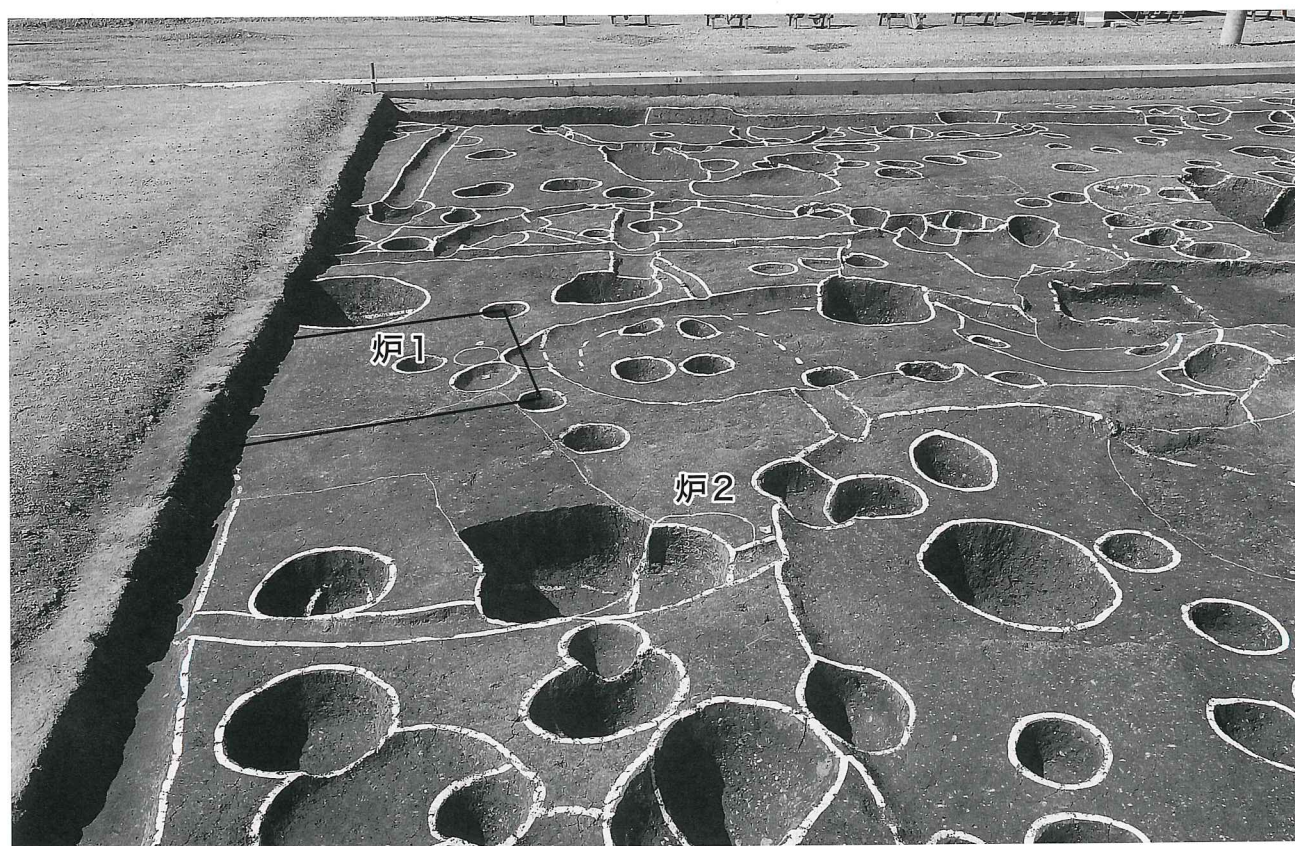
(1) SB9・10空中写真（竪穴住居の周辺には土坑が点在する。上が北で、真上より）



(2) SB10炉跡（床面を少し掘下げて地床炉としていた。西より）



(1) S B11 (古墳時代後期の竪穴住居である。部分的な検出で、かまどは調査区外に存在している。南より)



(2) S B12

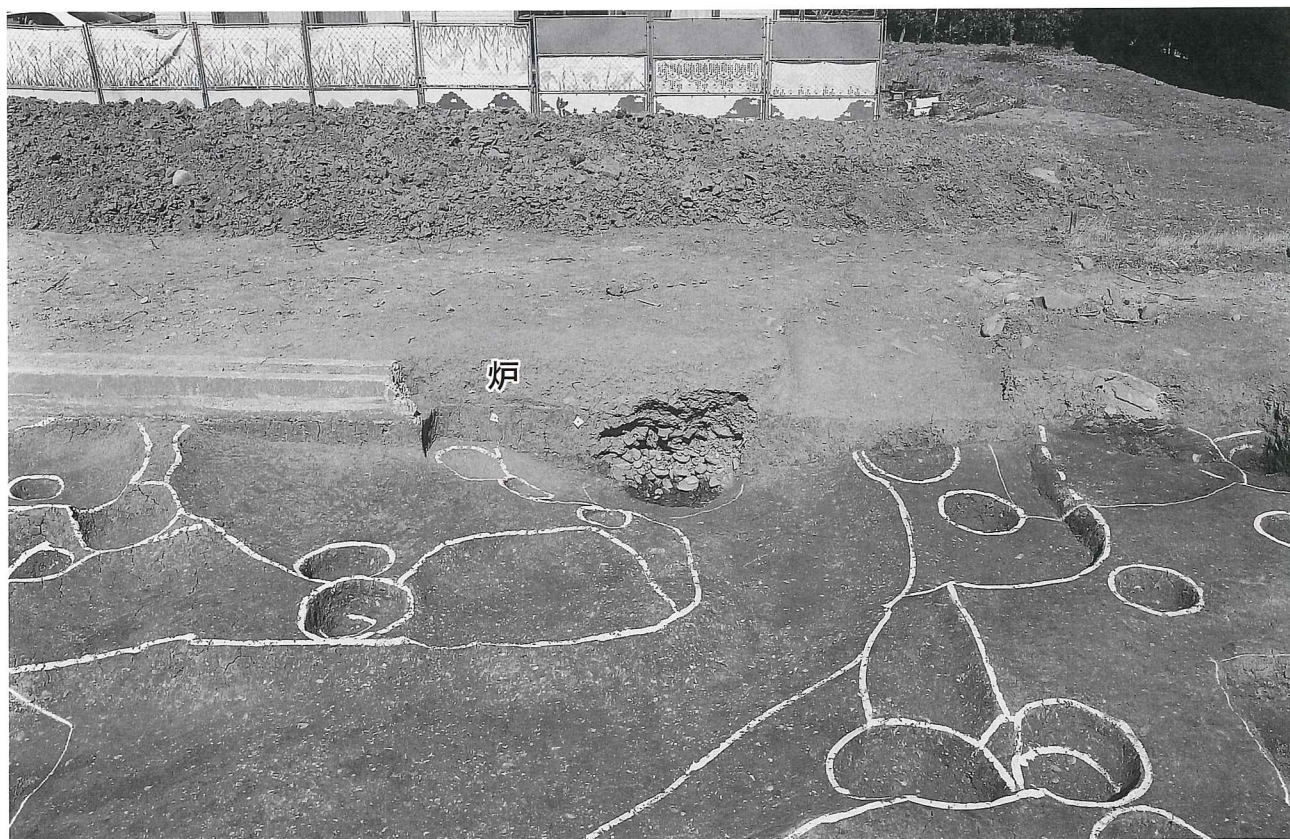
(弥生時代後期の竪穴住居であろう。楕円形の壁溝が巡るが、壁溝から見るとやや位置を換えて2棟の住居が重複していると見られる。東より)



(1) S B12炉跡1 (地床炉で、竪穴住居のほぼ中央に設けられていた。西より)

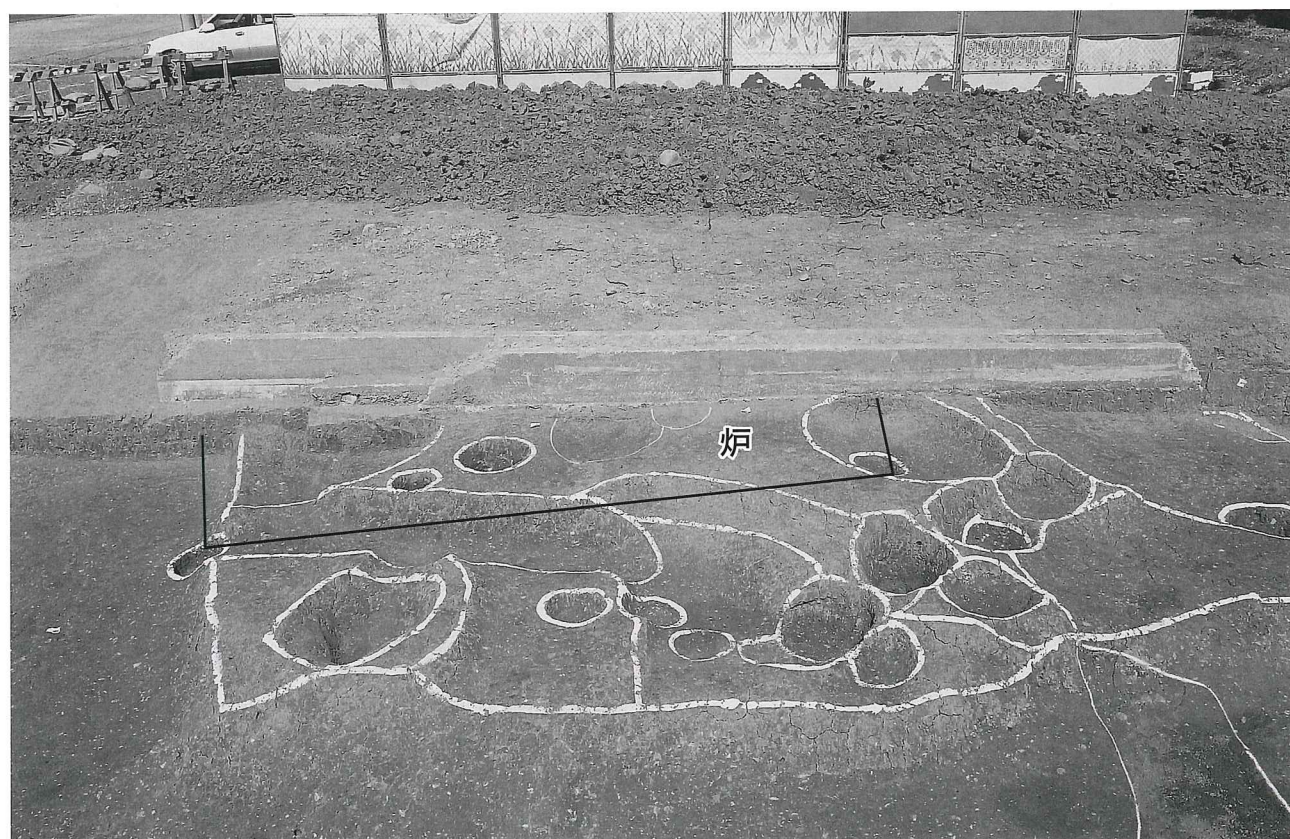


(2) S B12炉跡2 (地床炉で、S H21の柱穴により一部壊されていた。南より)



(1) SB14

(弥生時代後期の隅丸方形の竪穴住居と見られるが、半分は調査区外で、調査区内の部分も大半はS Z 2により壊されている。南より)



(2) SB15

(弥生時代後期の竪穴住居と見られるが、半分は調査区外で、調査区内の部分も壁溝はS Z 2により壊されている。南より)



(1) S B15炉跡 (地床炉で、2箇所の部分がよく焼けていた。位置から見ると南に寄るようである。南より)



(2) 南側拡張区全景 (S B16が新たに検出され、S H21も南側に延びないことが判明した。西より)

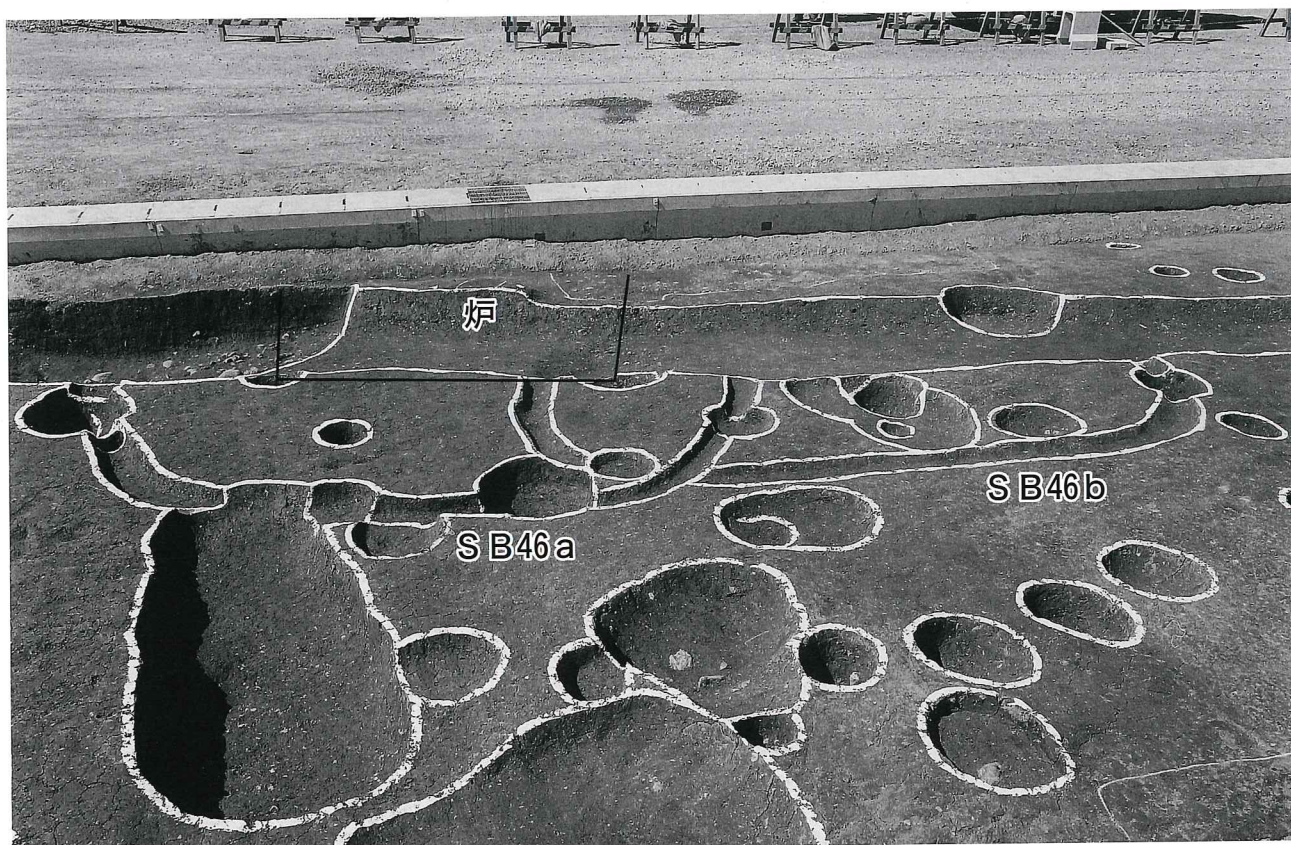


(1) S B16

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居で、壁溝から見ると最低5回の建替えがあったと見られる。住居の中央には炉が設けられている。南より)



(2) S B16炉跡 (良く焼けた地床炉である。北より)

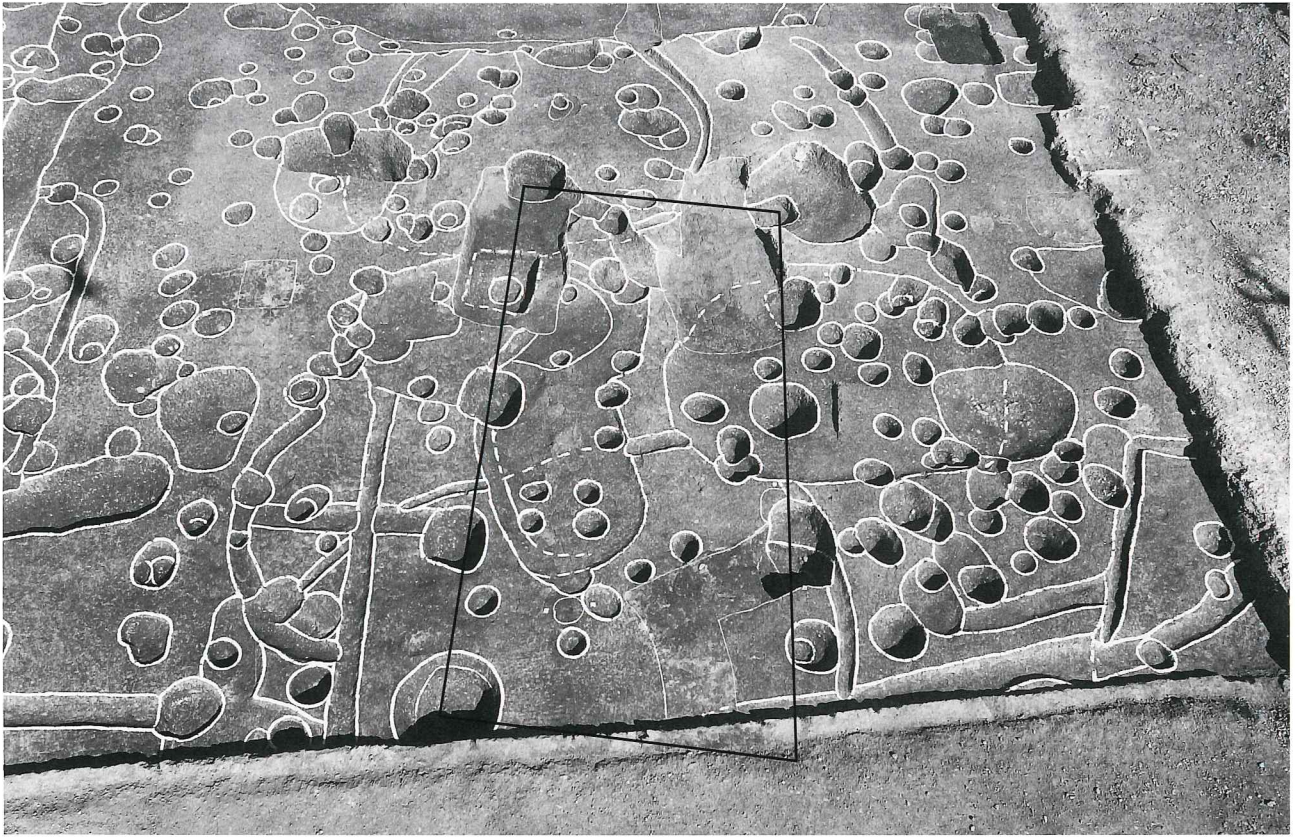


(1) S B46

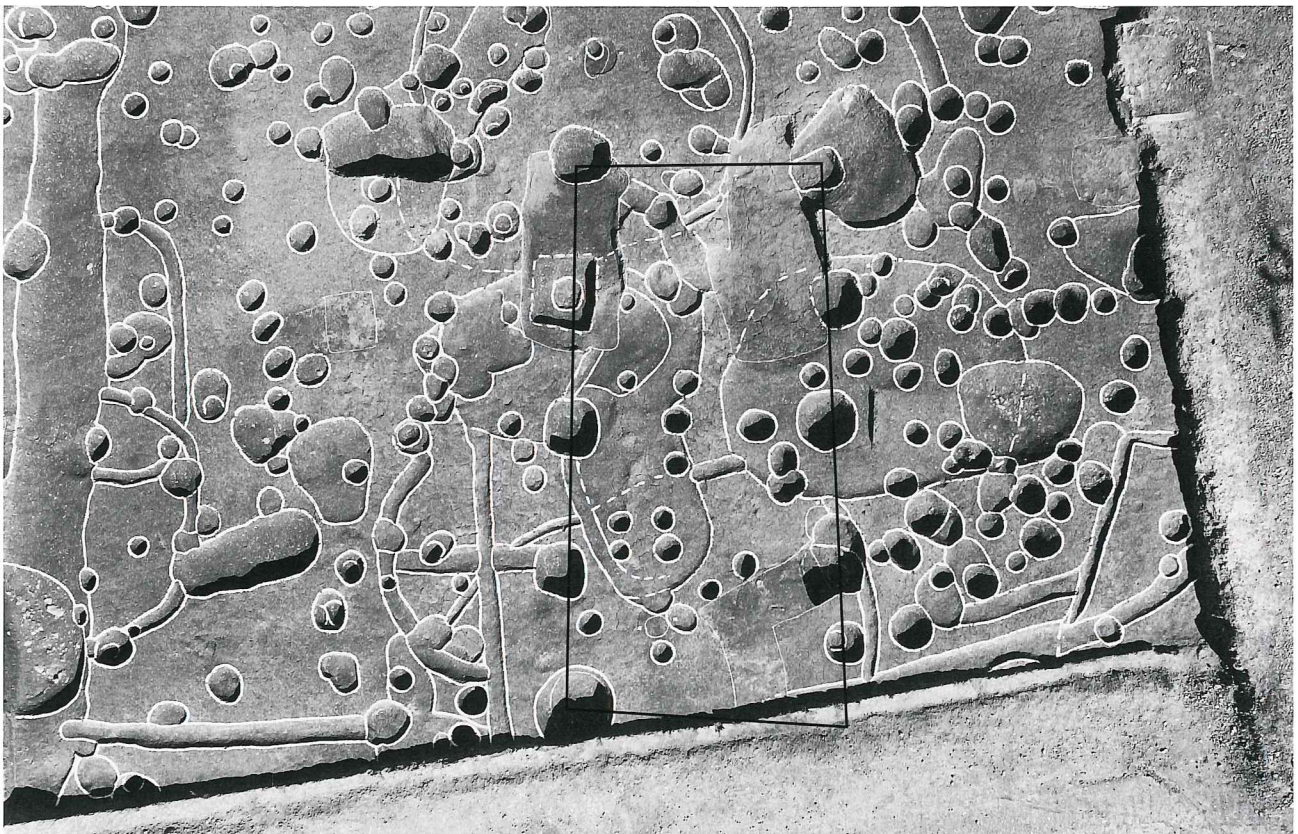
(弥生時代後期の重複した2棟の竪穴住居と見られるが、半分はS D28により壊されている。東より)



(2) S B46 a 炉跡 (あまり良く焼けていないが、地床炉である。半分はS D28により壊されている。北より)



(1) SH21空中写真
 (奈良時代の土間造りの掘立柱建物で、1間×4間の規模となる。
 郡衙関連の建物と見られるが、正倉院外の建物である。南より)



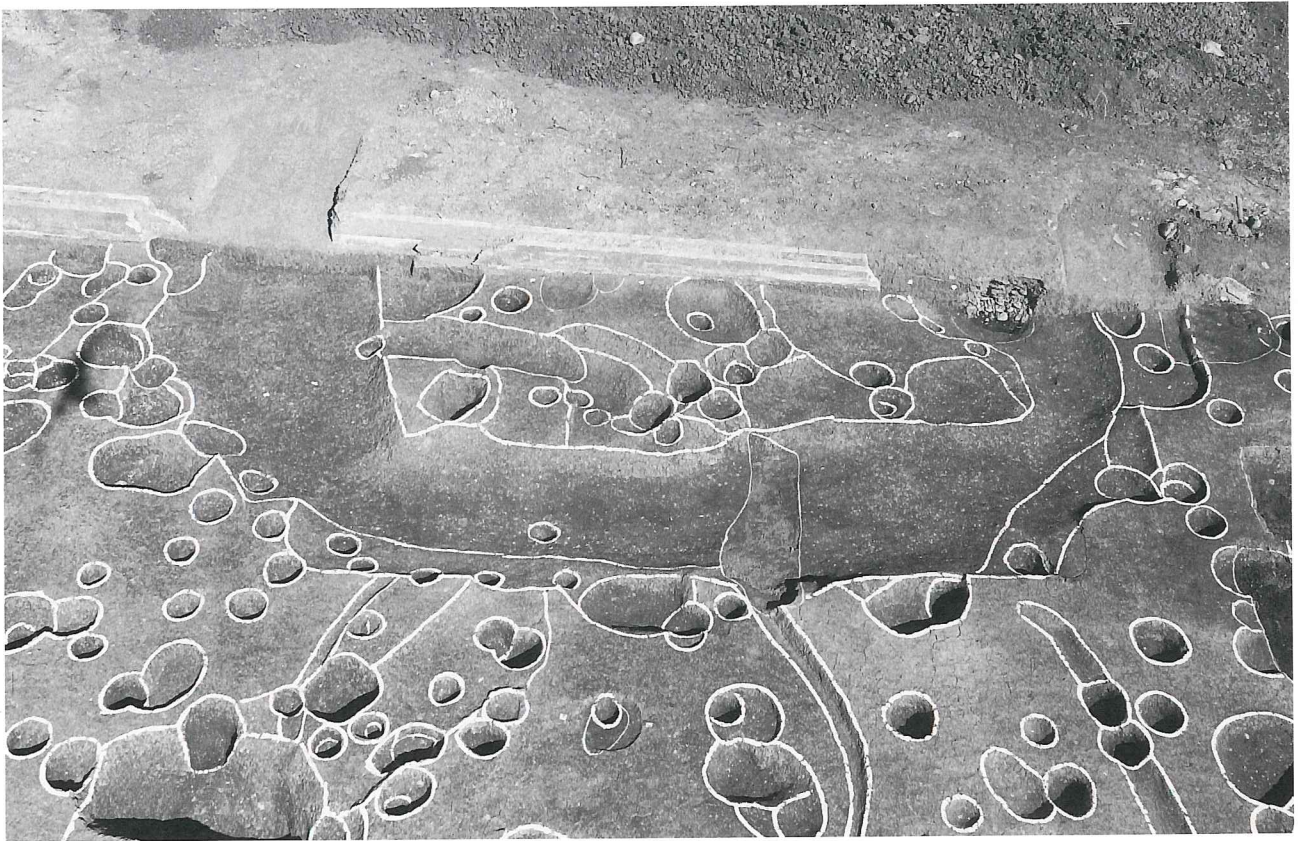
(2) SH21空中写真 (主軸方向は郡衙関連の建物と合致する。上が北で、真上より)



(1) SH21 S P124 土層 (径20cm程度の柱痕跡が認められる。東より)

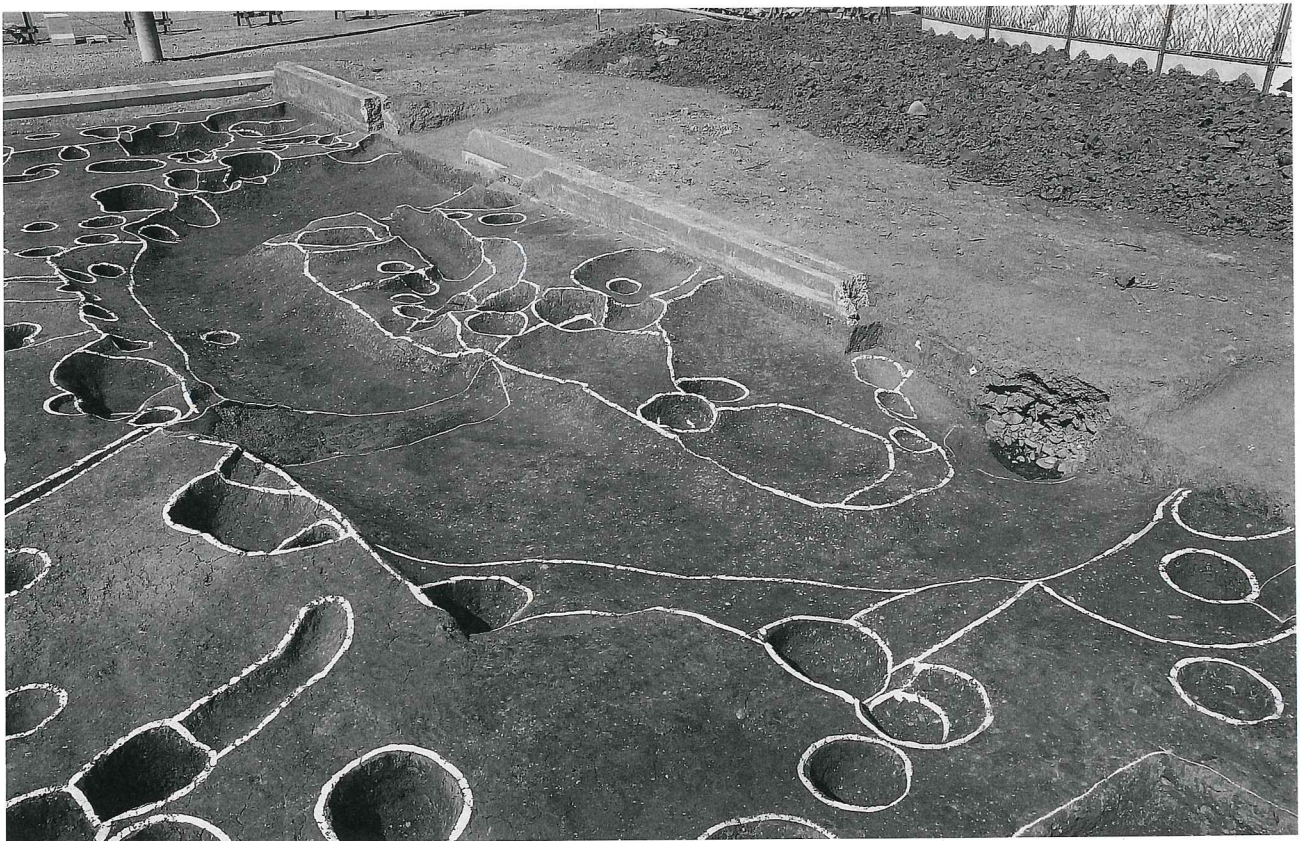


(2) SH21 S P99 (奈良時代の掘立柱建物特有の方形の掘方をもつ柱穴である。東より)

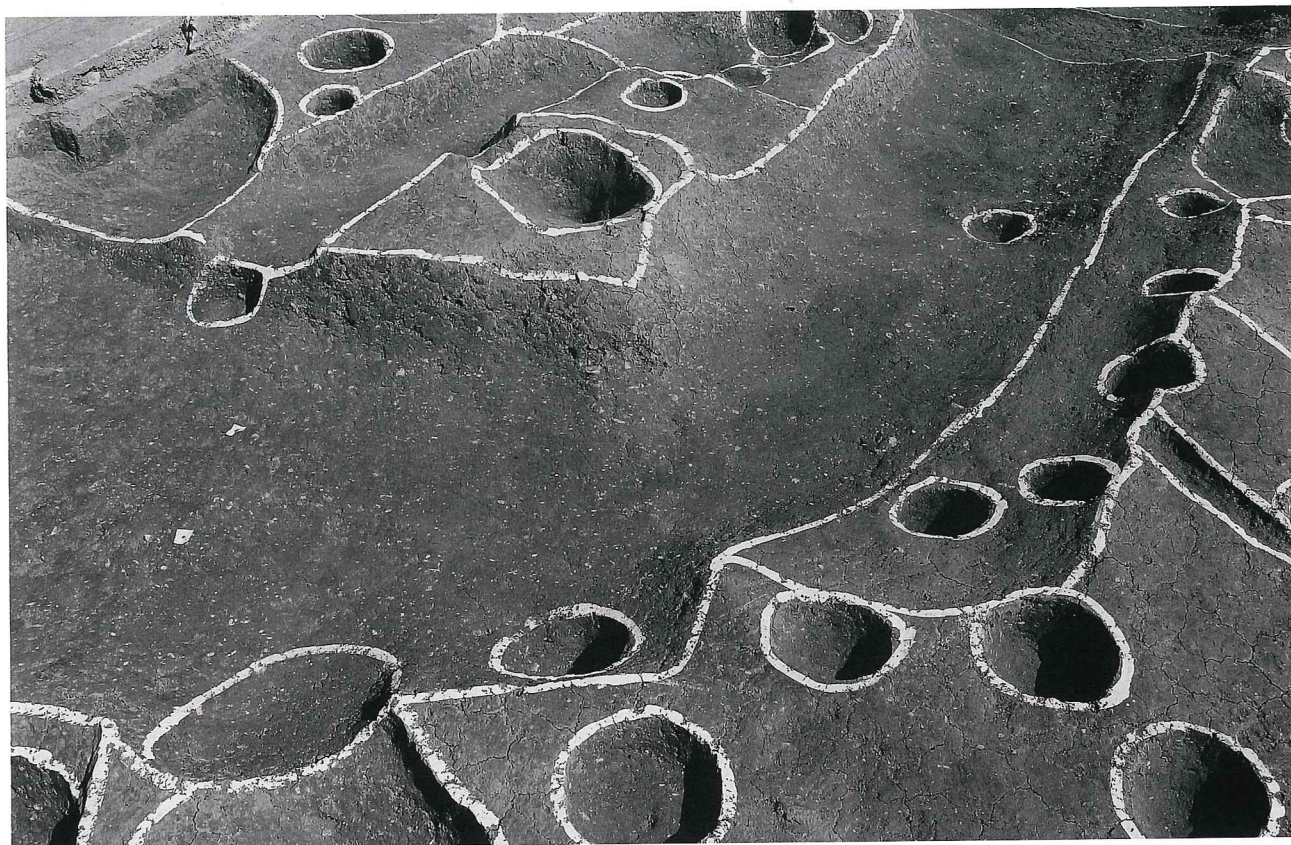


(1) SZ 2 空中写真

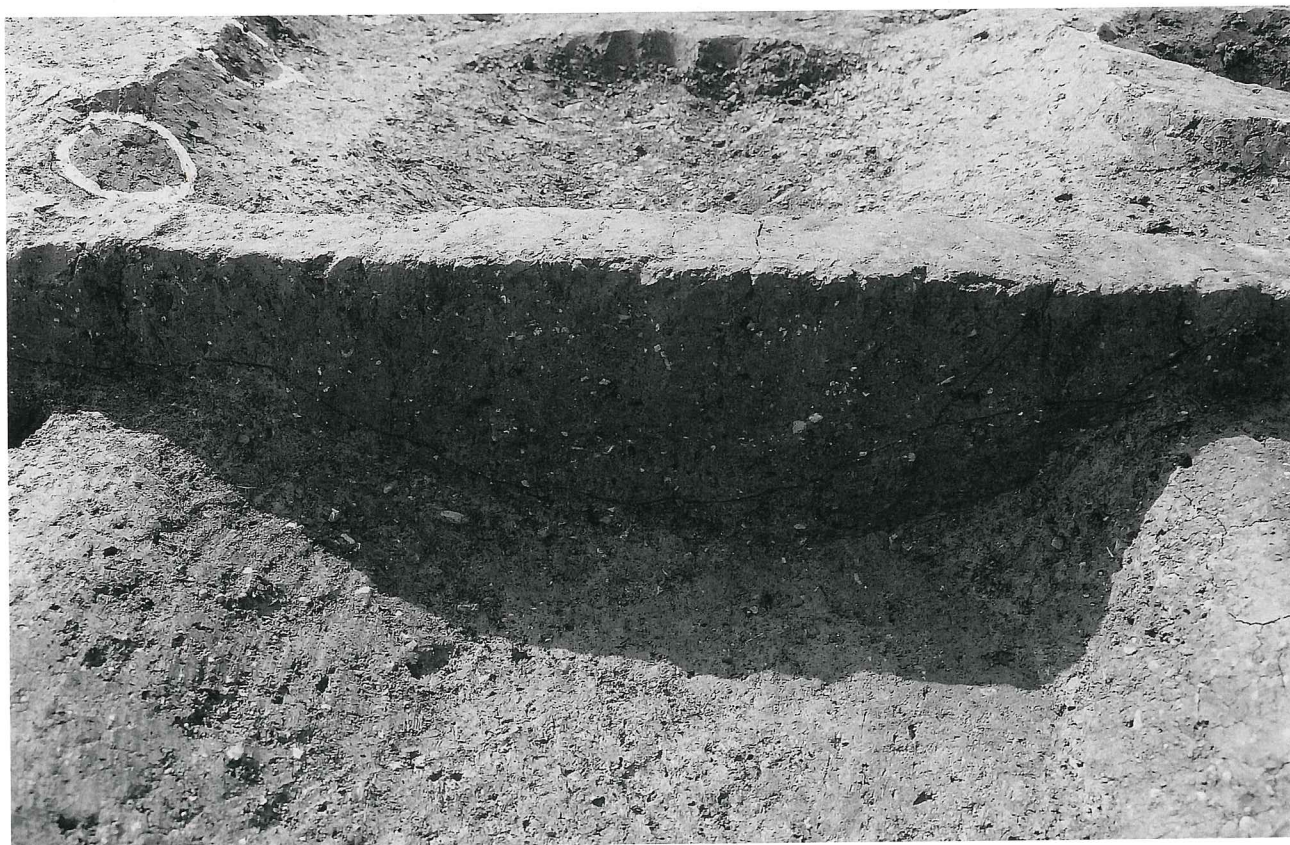
(古墳時代初頭の四隅がつながる形態の方形周溝墓である。
半分しか検出できていないため全体の形態は不明である。南より)



(2) SZ 2 (重複している弥生時代後期の竪穴住居や土坑を全て壊している。南東より)



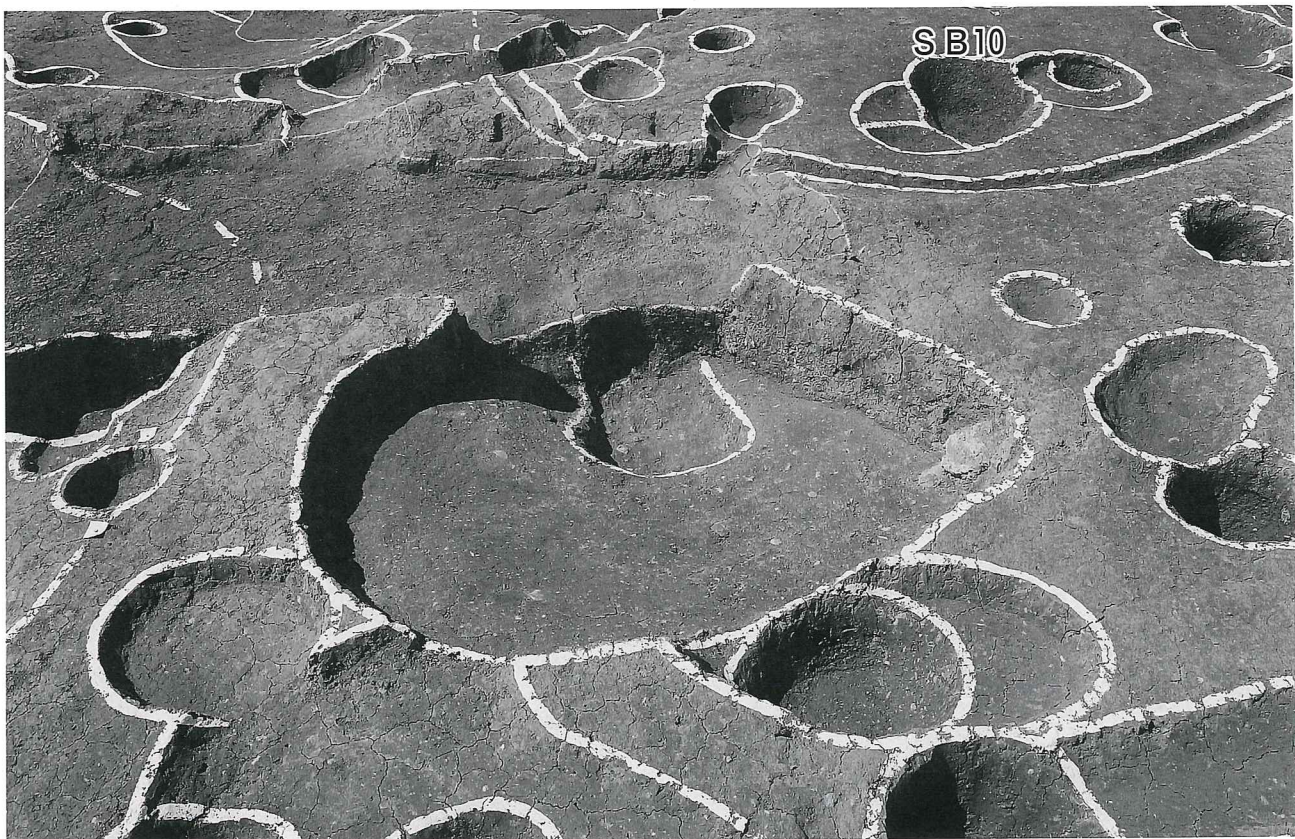
(1) S Z 2 南西コーナー
(古墳時代初頭の方形周溝墓の特徴である四隅のコーナーはつながるが、狭くなる形態を示している。南西より)



(2) S Z 2 南溝土層 (自然堆積を示し、方台部からの盛土らしい流入が認められた。東より)



(1) S Z 2 南溝出土土器（古墳時代初頭の壺で、溝底近くから横倒し状態で出土した。北より）



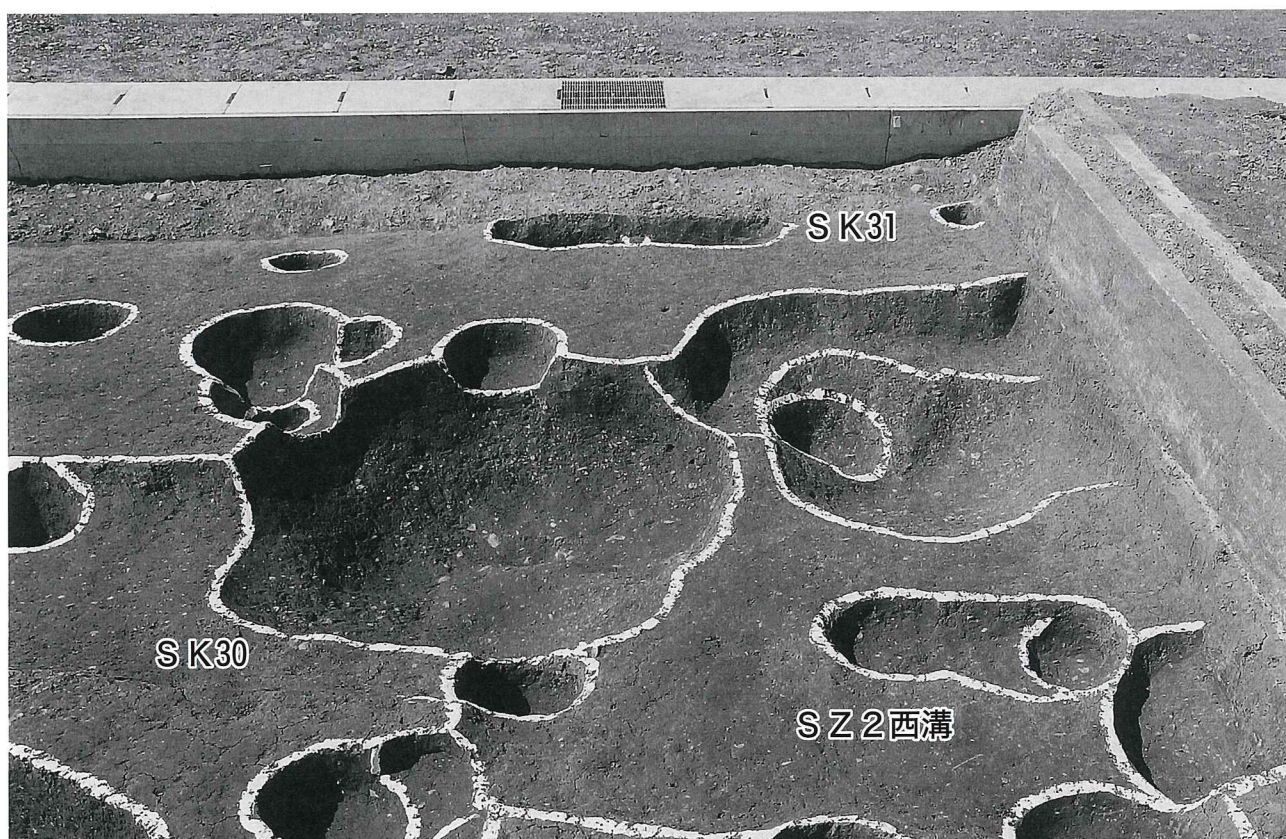
(2) S K 25（弥生時代後期の土坑である。S B 9・10の近くに存在する。東より）



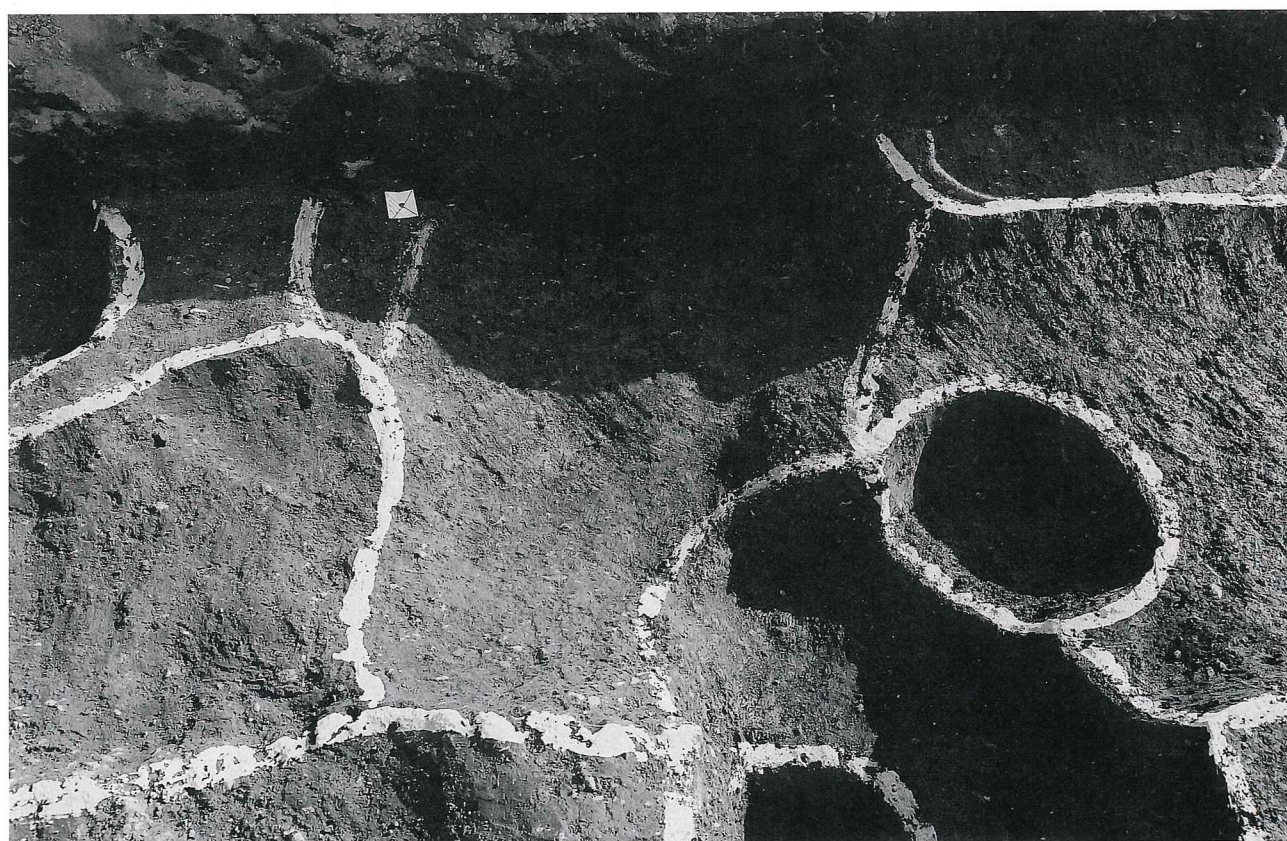
(1) S K26 (弥生時代後期の土坑である。S B 9より新しくS B10の付近に存在する。東より)



(2) S K27・28 (弥生時代後期の土坑で、S B46・12の近くに存在する。東より)



(1) S K30・31 (弥生時代後期の土坑で、S Z 2により壊されている。S B15付近に存在する。東より)



(2) S K33 (弥生時代後期の土坑で、S B16より新しい。北より)



(1) S P184 (弥生時代後期の土器埋納小穴である。小型の壺が出土した。東より)



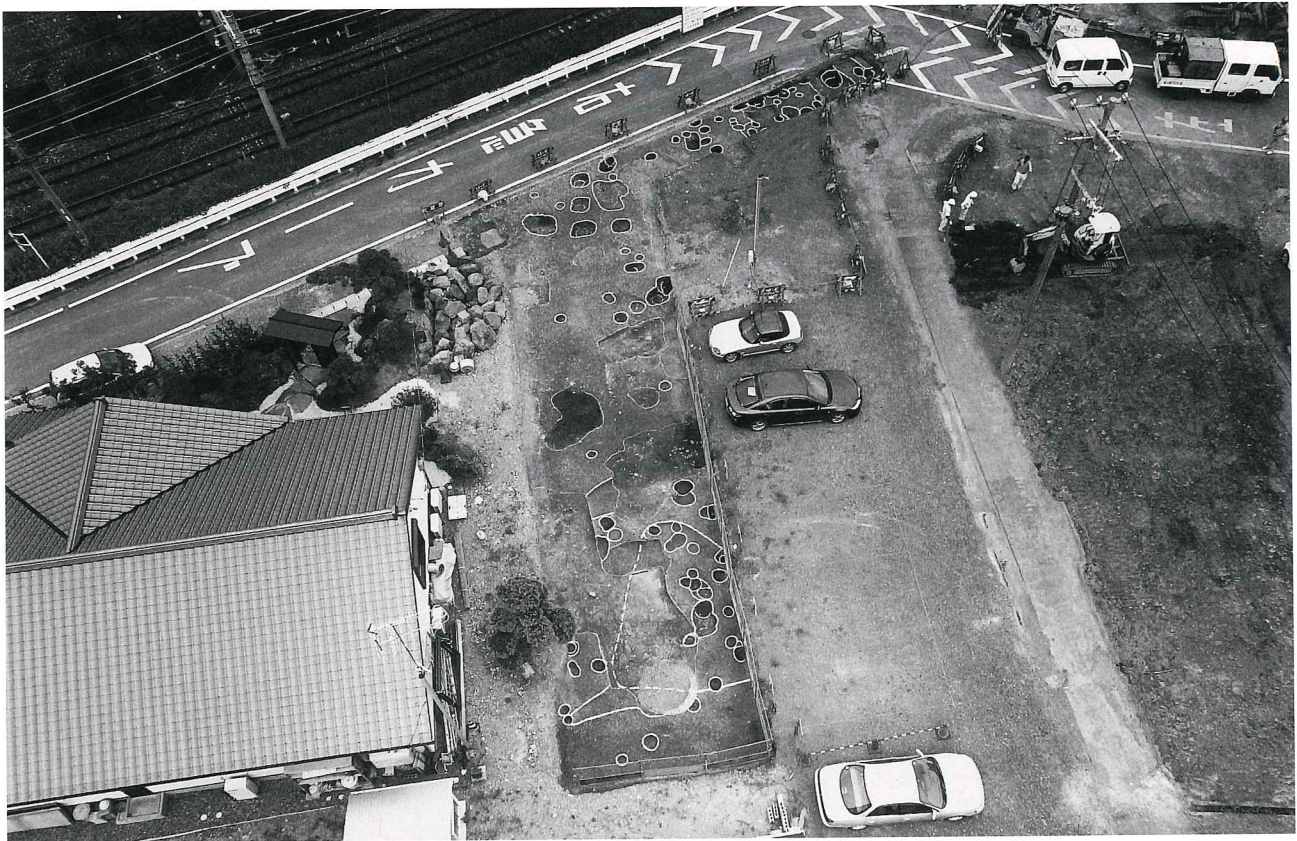
(2) 調査区北壁中央土層
(厚さ25cmの包含層が見られるが、南・西端では薄くなりほとんど確認できなくなる。南より)



(1) 重機による表土掘削作業（包含層の上面まで表土を掘削した。）



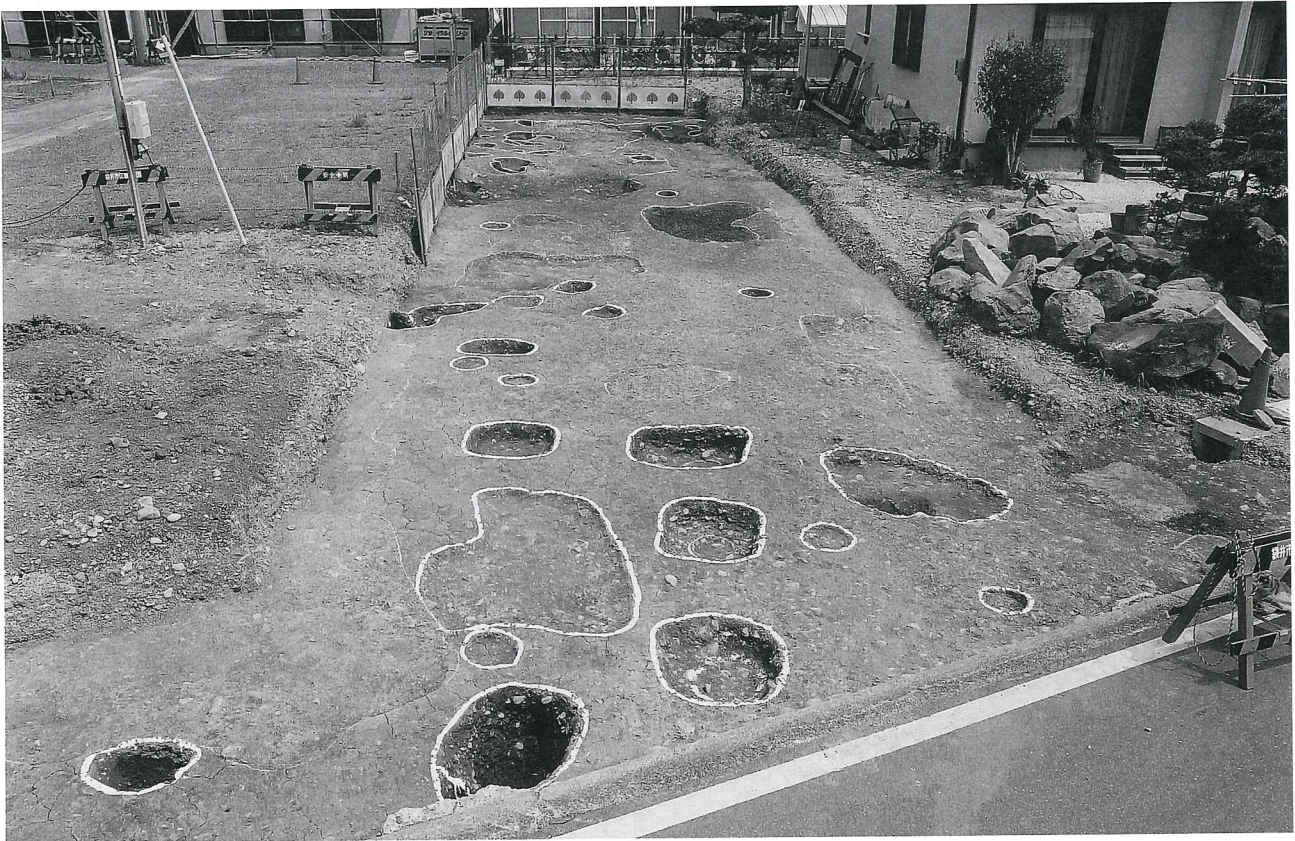
(2) ラジコンヘリによる写真撮影と写真測量風景



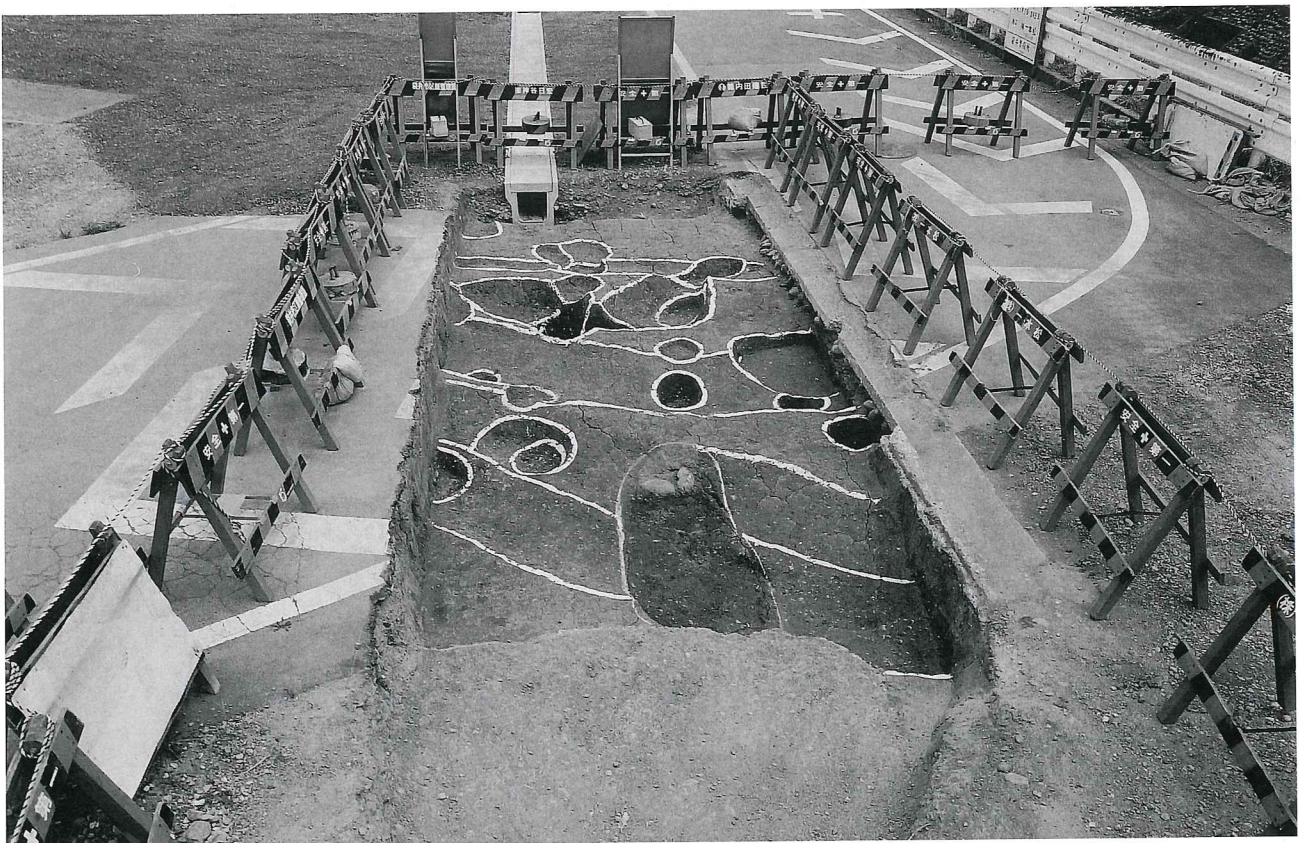
(1) 第69次発掘調査区空中写真全景
(保存状況の良くない竪穴住居と、奈良時代の掘立柱建物が検出された。北より)



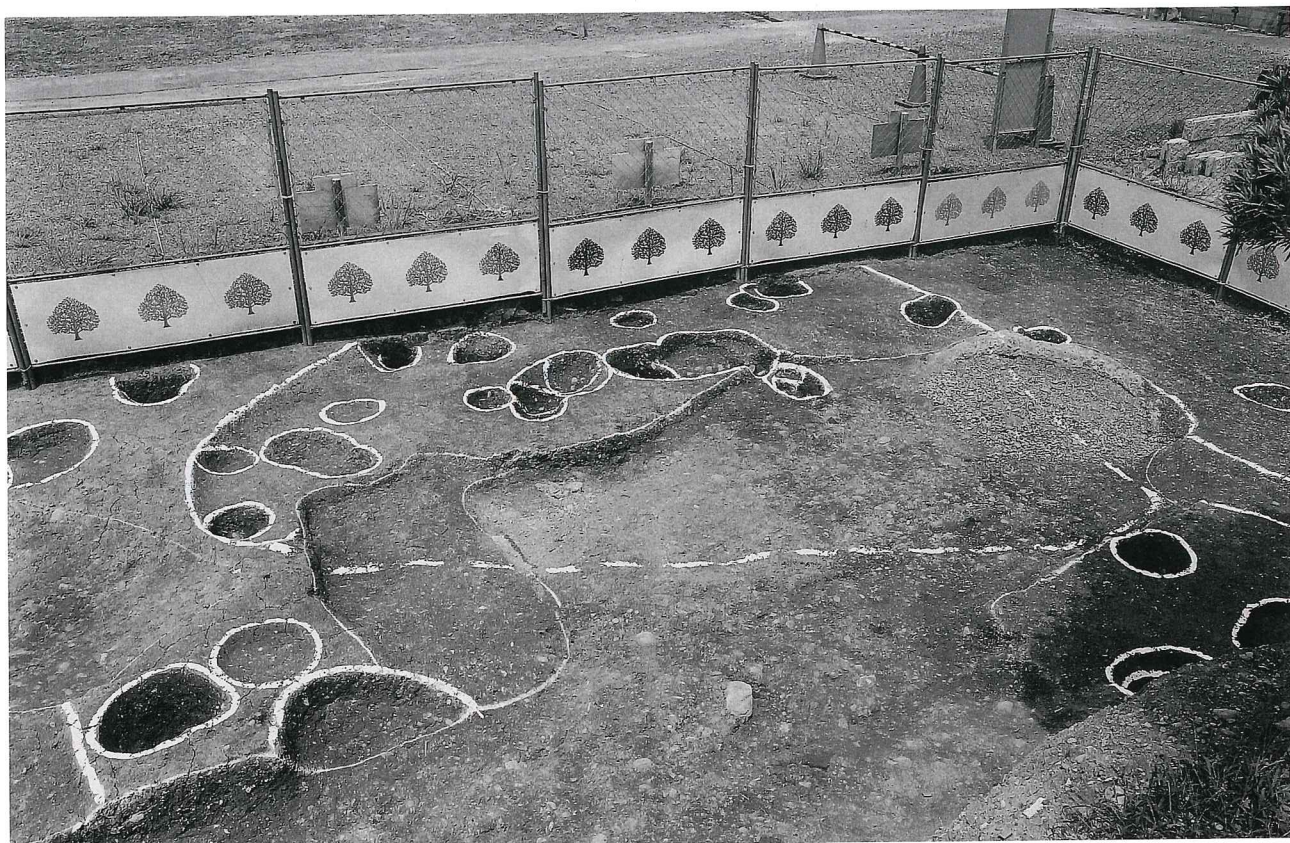
(2) 第69次発掘調査区空中写真全景 (遺跡の東の限界に近いので、遺構の数は少なくなる。東より)



(1) 第69次発掘調査区全景（手前に奈良時代の掘立柱建物が見られる。南より）

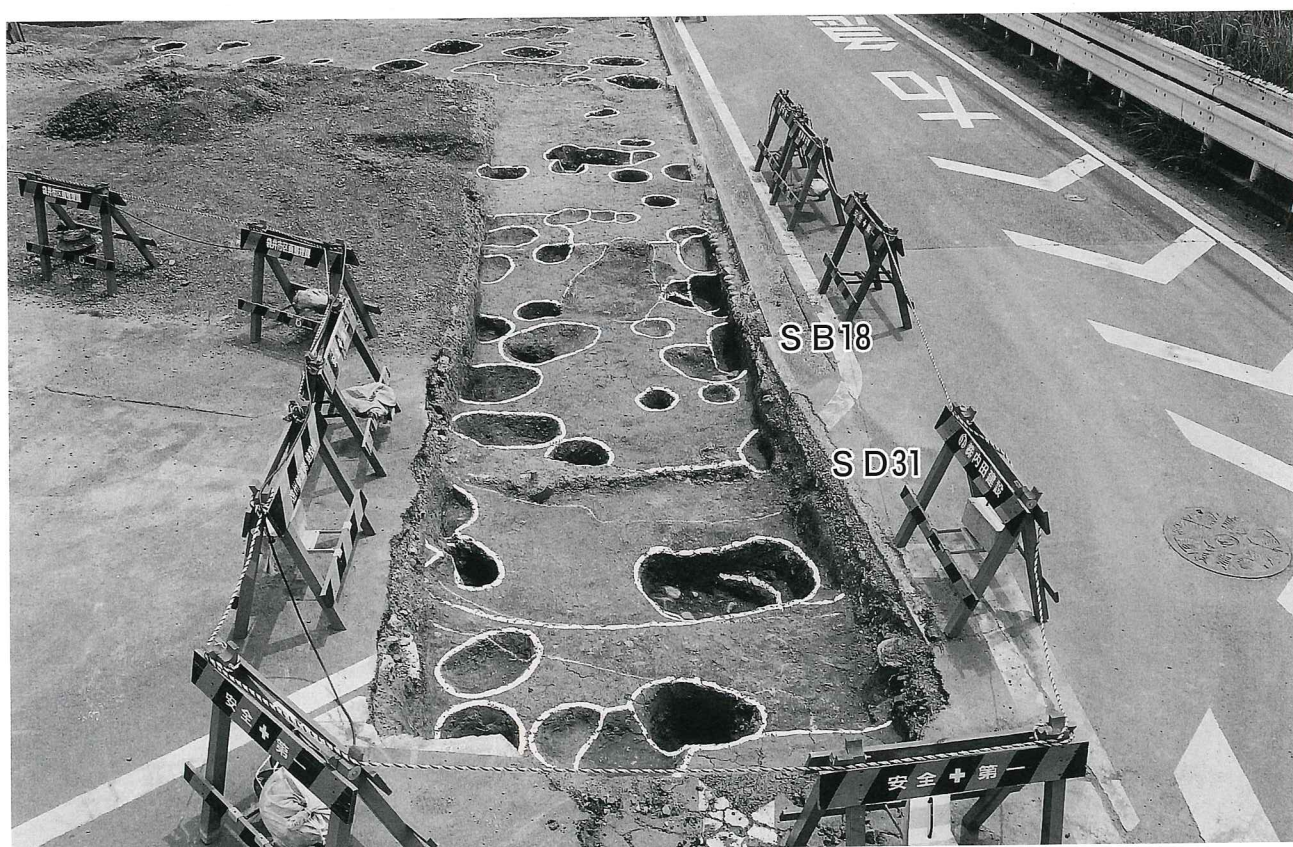


(2) 第69次発掘調査西側拡張区全景（弥生時代後期の竪穴住居や江戸時代末期の溝が見られる。西より）



(1) SB17

(弥生時代後期の竪穴住居と思われるが、保存状況が悪く
全体の形態は不明である。炉跡も見つかっていない。東より)



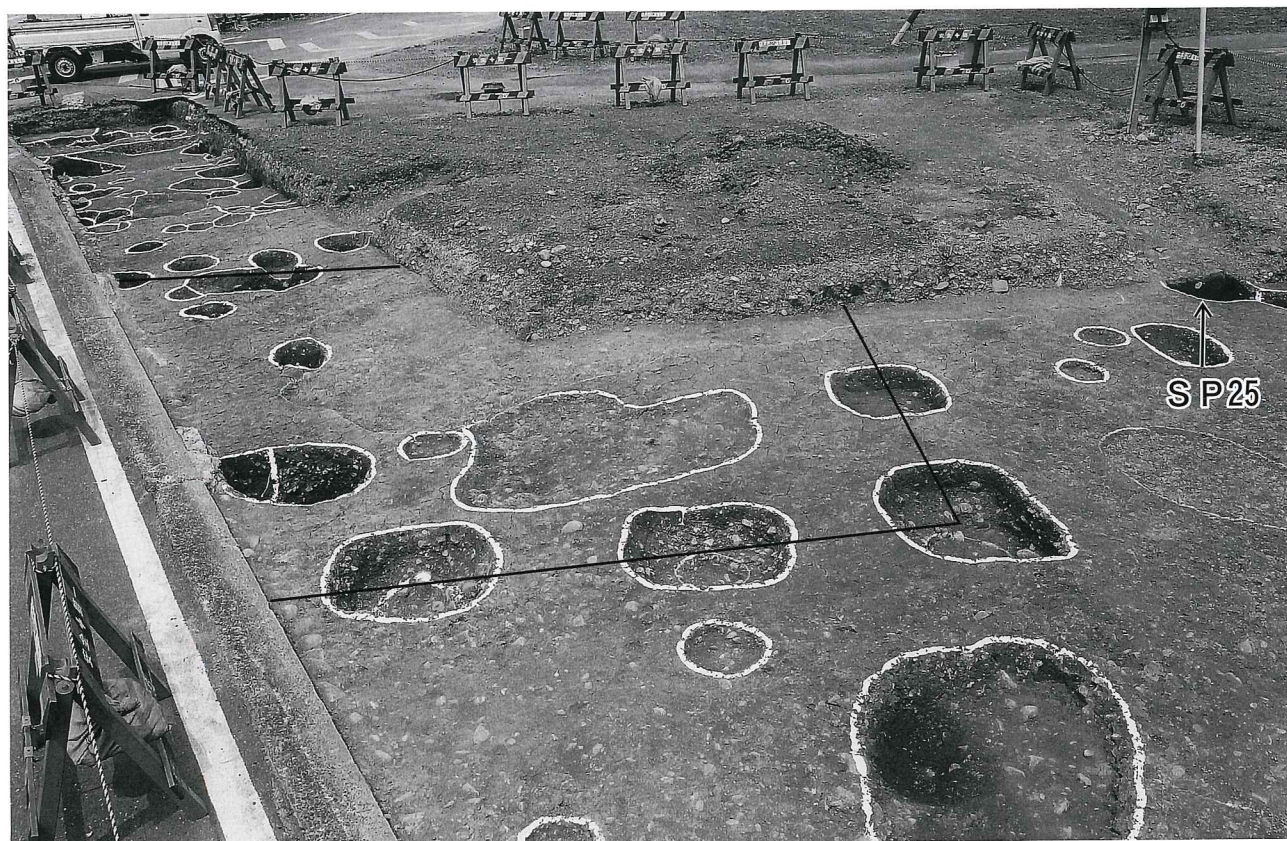
(2) SB18 (弥生時代後期の竪穴住居であるが、中央部分が江戸時代の溝により壊されている。西より)



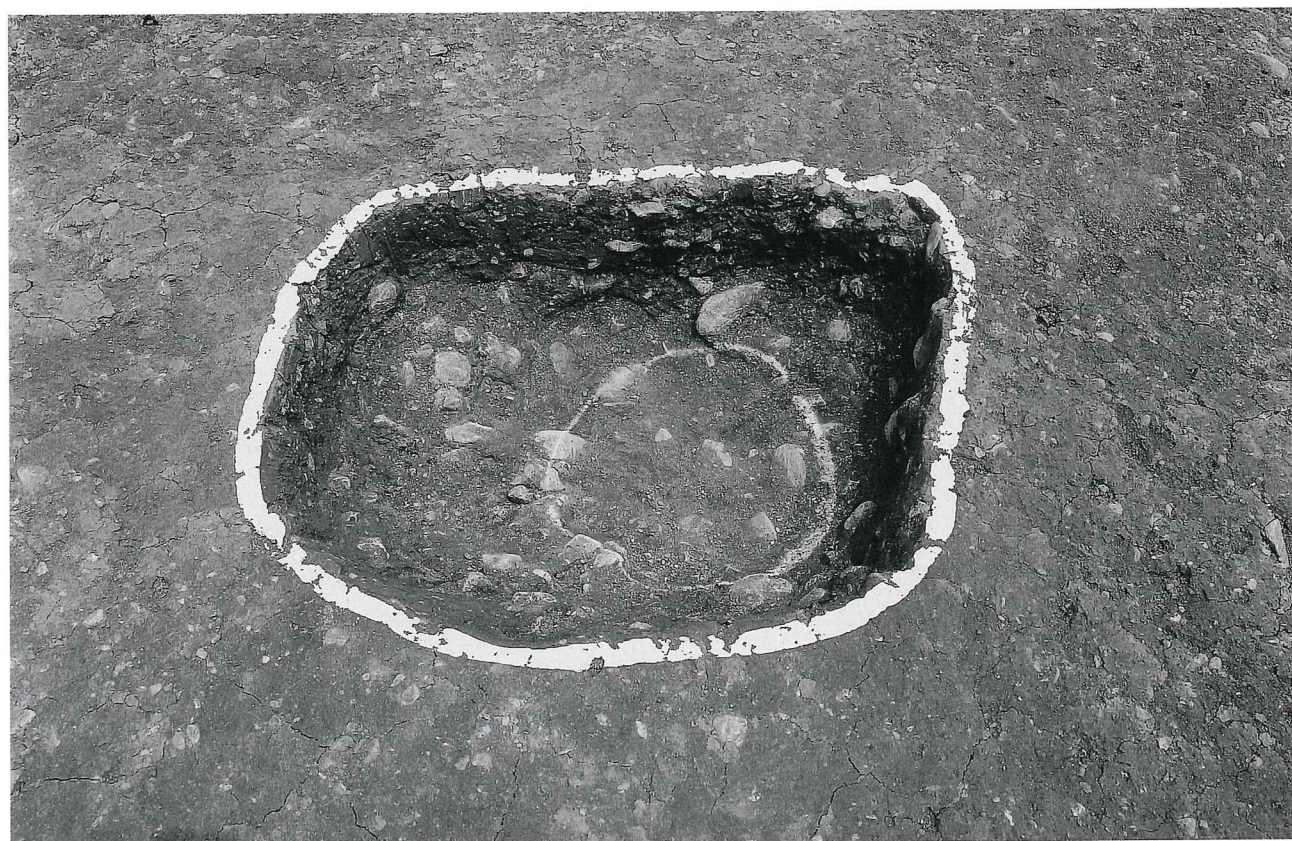
(1) SB18 (西側拡張部分の状況で、西側の壁溝が検出できた。南より)



(2) SH22 (奈良時代の土間式の掘立柱建物と見られる。主軸方向は郡衙関連の建物と合致する。南より)



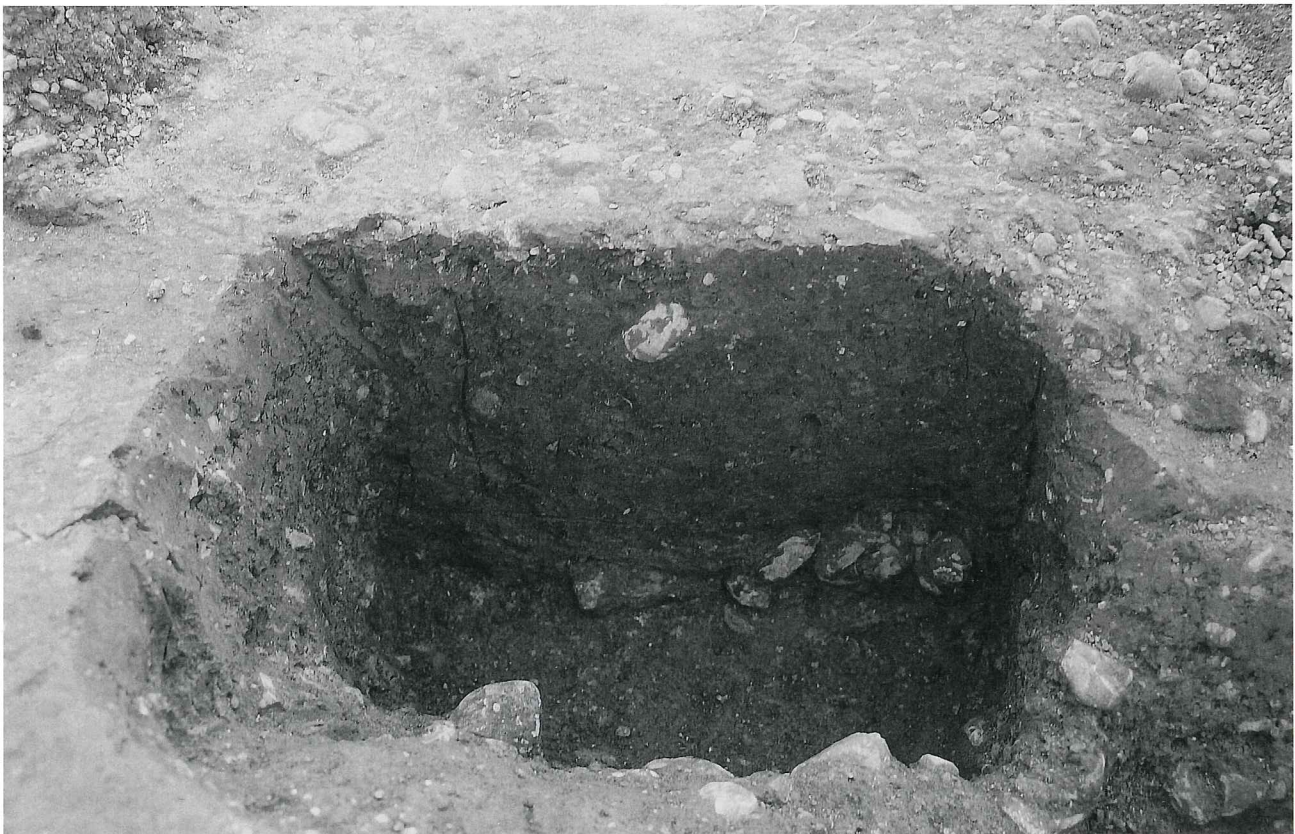
(1) SH22 (間口の長さが短い建物で倉庫の可能性が高い。確実な建物規模は不明である。東より)



(2) SH22SP1 (奈良時代特有の方形の掘方の柱穴で、底に径30cm程度の柱痕跡が確認された。東より)

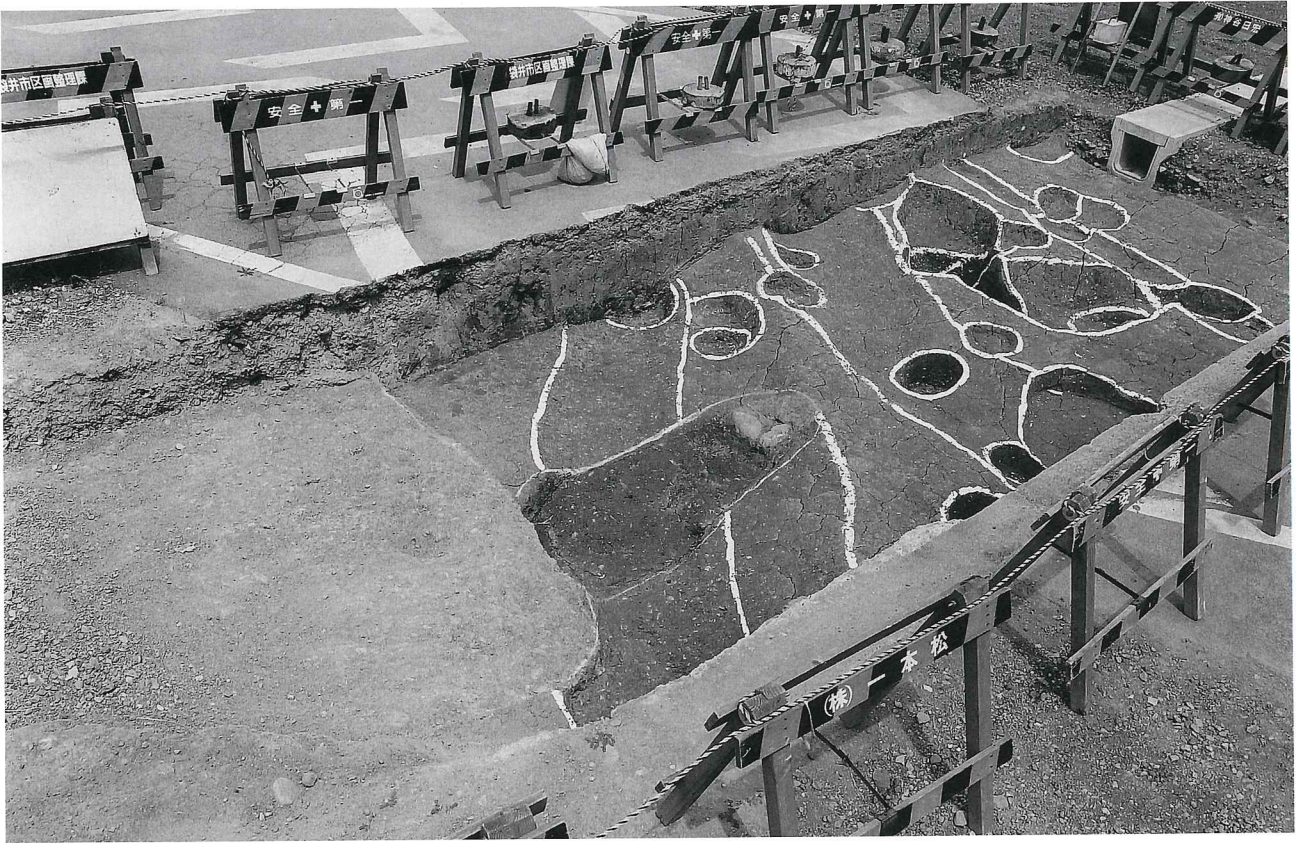


(1) SH22SP1 土層 (土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より)



(2) SP25

(SH22の北側にも同規模の柱穴規模になるものが確認できた。
土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より)



(1) S D32 (江戸時代末期の溝で、排水用の溝と見られる。南西より)



(2) I 区西壁中央土層
(厚さ20cm包含層がI 区西半分では存在したが、東側では包含層は存在しなかった。東より)



(1) 重機による表土掘削（包含層がほとんどなかったため遺構確認面までの表土を掘削した。）



(2) 人力による作業風景（SH22の柱穴などを検出している。）



(1) 第71次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居や土坑、奈良時代の掘立柱建物、江戸時代末期の溝などが存在する。西より)



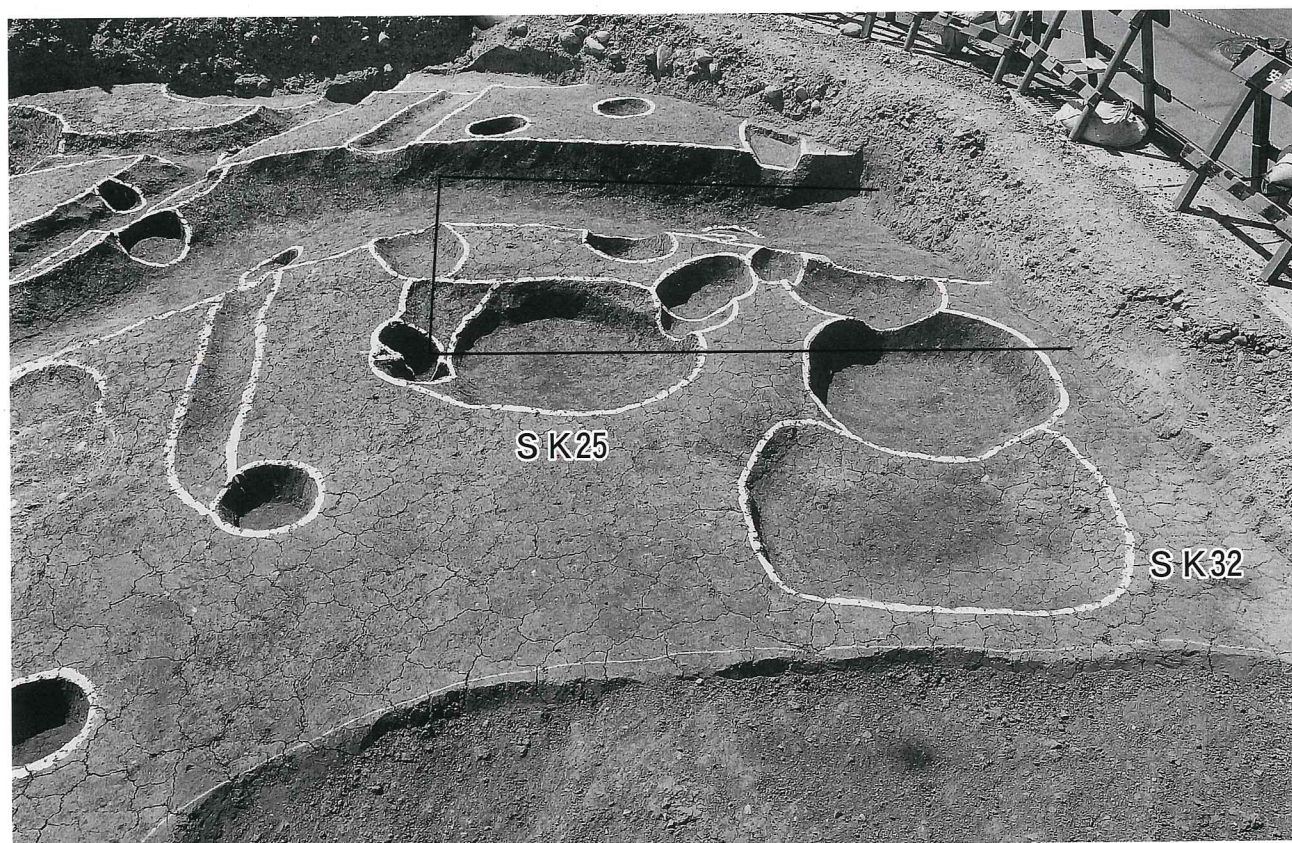
(2) 第71次発掘調査区空中写真全景 (後世の攪乱のため、遺構の保存状況は良くない。東より)



(1) 第71次発掘調査区全景（南西より）



(2) 第71次発掘調査区全景（北より）



(1) S B 1

(古墳時代後期の竪穴住居と見られるが、壁溝の一部と柱穴のみの検出で
かまどは後世の遺構で壊されていた。北より)



(2) S B 12

(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が重複していると見られるが、
溝や土坑も切合うため全体の形態は良く分からない。西より)



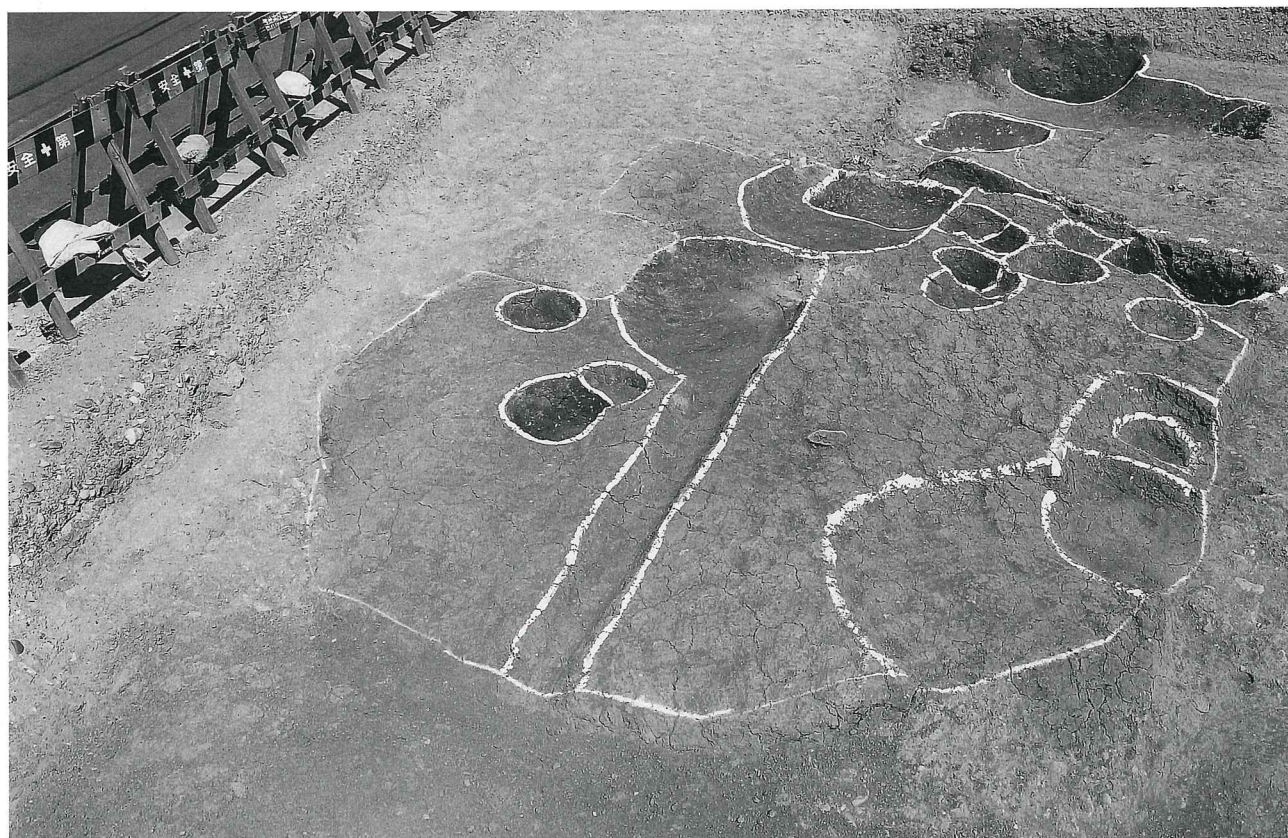
(1) S B13 (古墳時代後期の竪穴住居で、北壁にかまどが、南壁付近には貯蔵穴が見られる。北より)



(2) S B13かまど (一部壊されているせいか、白色粘土のまとまりは弱い。南より)



(1) S B13貯蔵穴（南壁付近で検出された貯蔵穴である。東より）



(2) S B14

（古墳時代後期の竪穴住居と思われるが、壁溝の一部と柱穴しか検出されていないため、全体の形態は不明である。南より）



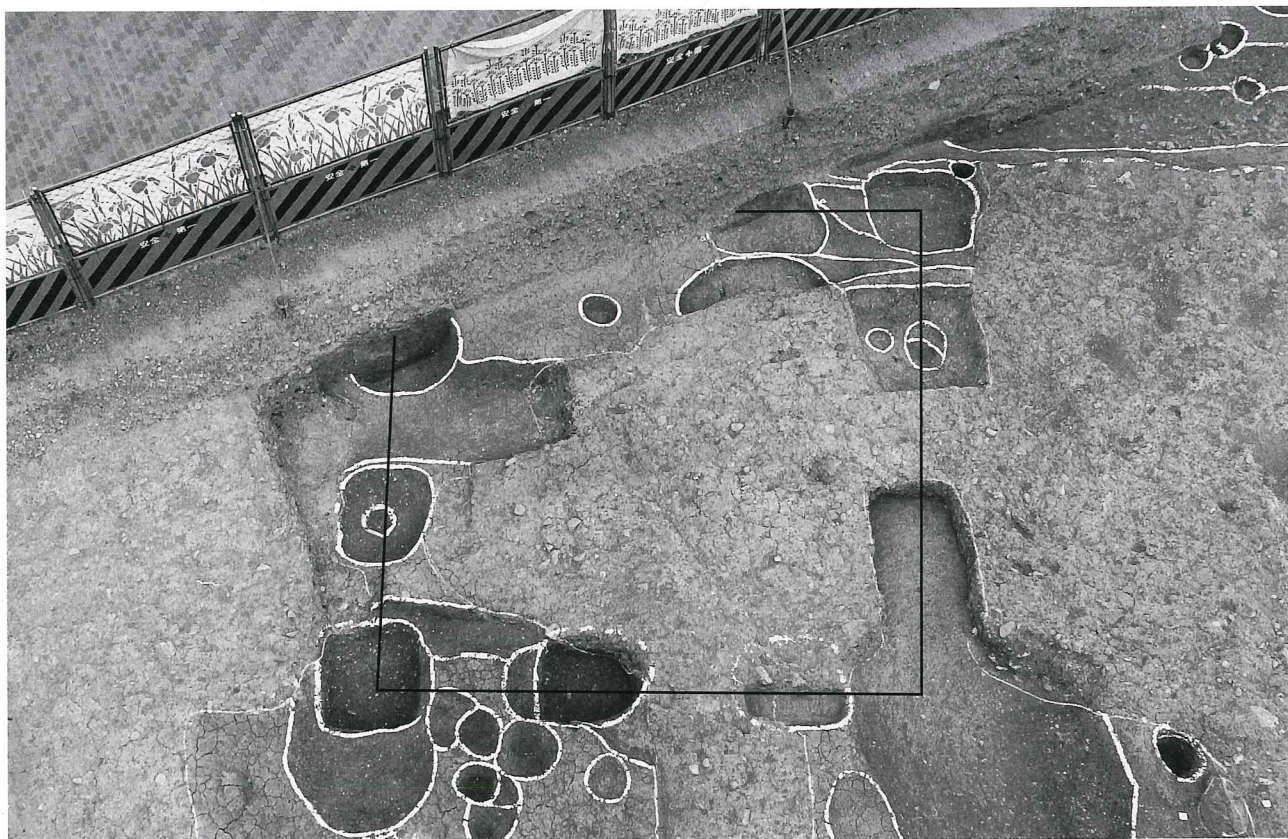
(1) S B15

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居であろう。壁溝から見ると最低2時期の建替えがあったと思われる。南より)

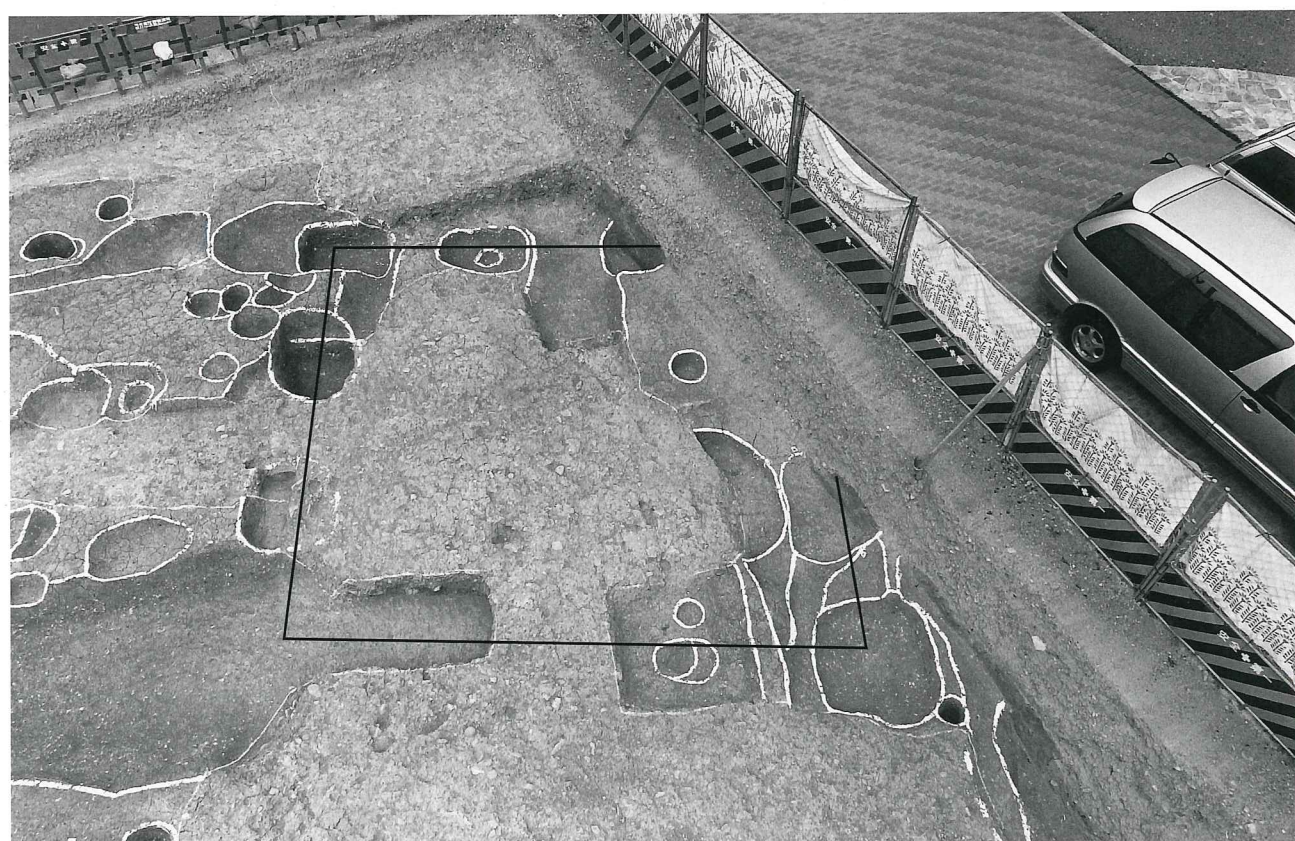


(2) 焼土1

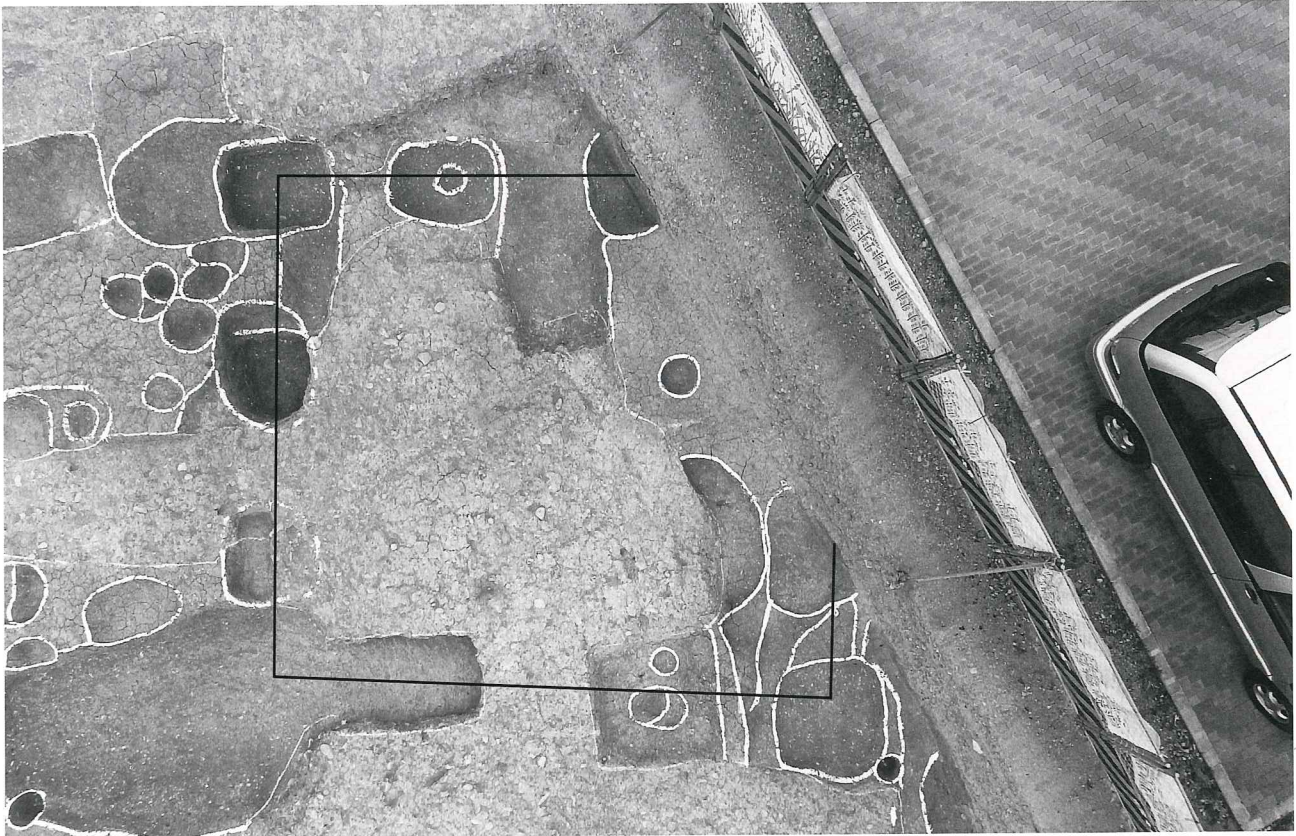
(S K27付近で発見された炉跡と思われる小さな地床炉であるが、周辺部の攪乱が激しく、竪穴住居として認識できなかった。北より)



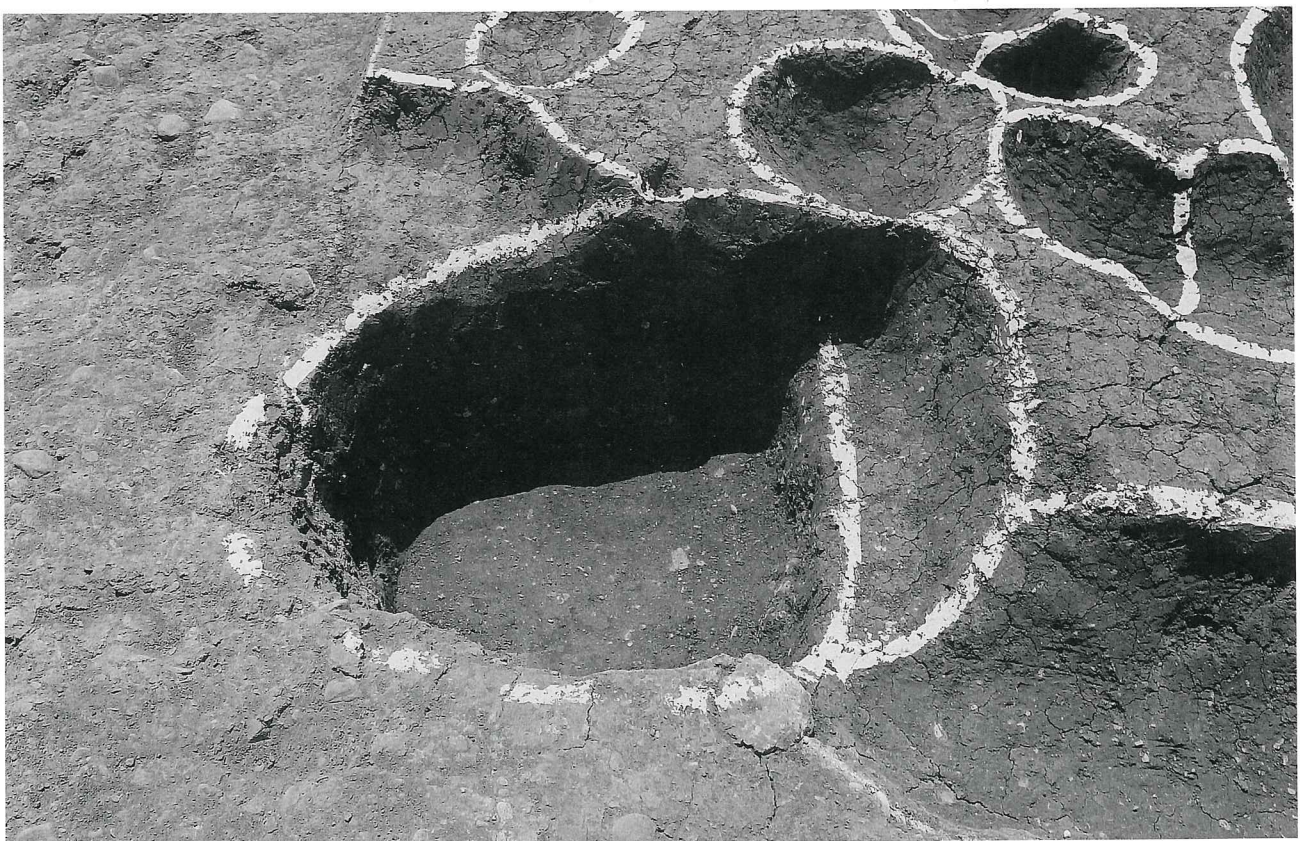
(1) SH5空中写真（奈良時代の3間×3間の土間式の掘立柱建物である。南より）



(2) SH5空中写真（郡衙関連の建物で、主軸方向も合致する。東より）



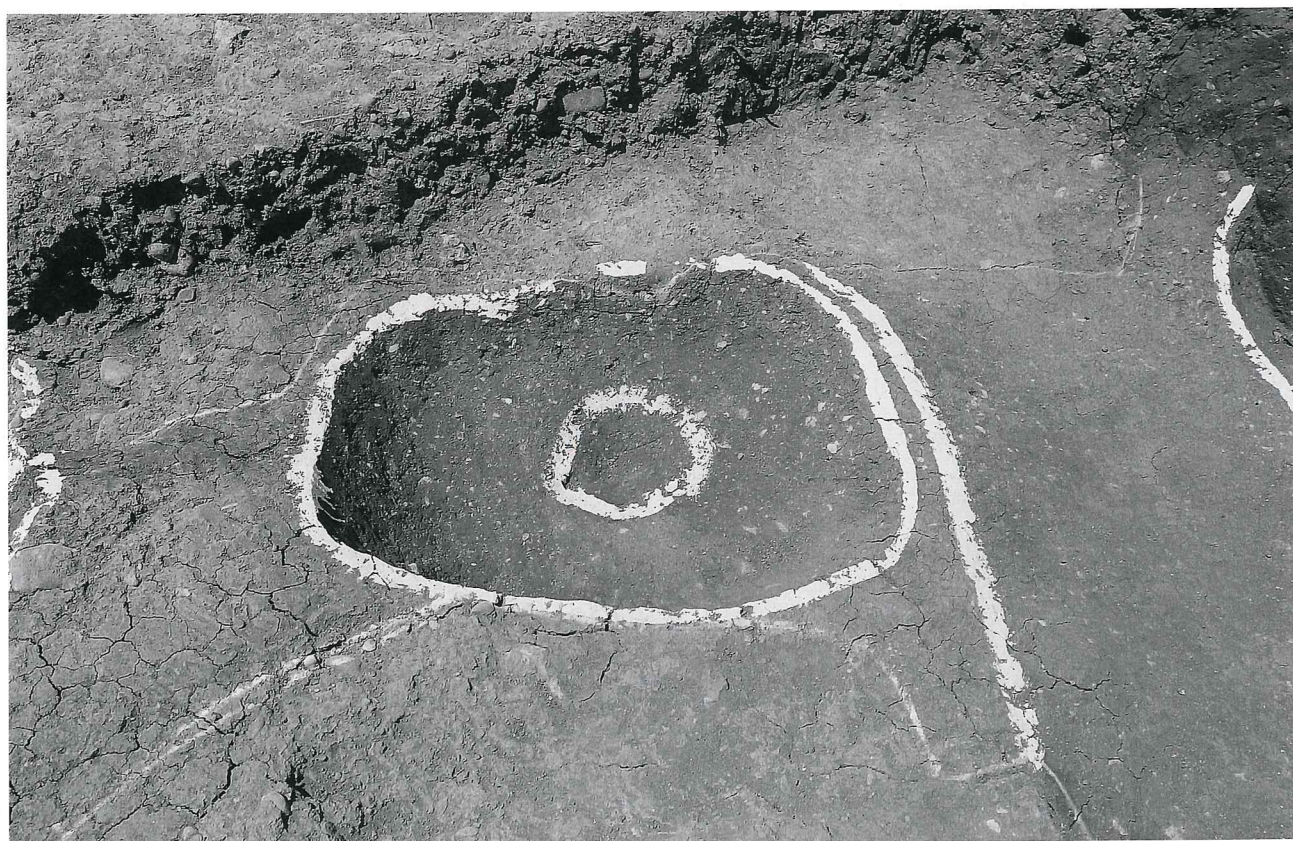
(1) SH5 空中写真
(総柱にはならないが、柱間の距離が短いため倉庫の可能性はある。上が西で、真上より)



(2) SH5 SP85 (奈良時代特有の方形の掘方になる。北より)



(1) SH5 SP85土層（土層からは径20cm程度の柱痕跡が確認できた。南より）



(2) SH5 SP96（奈良時代特有の方形の掘方になり、底に径20cm程度の柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH5 SP96土層（土層からは柱痕跡は確認できなかった。東より）



(2) SH6（比較的大きな円形の柱穴からなる掘立柱建物であるが、全体の形状は不明である。北より）



(1) SD4 (中世の建物を区画する溝と見られる。内部に中世のSK32が存在する。東より)



(2) SD7

(弥生時代後期の排水用の溝であると見られる。攪乱のためかなりの部分が失われている。南西より)



(1) SD7 土器出土状況
(土器片はかなりまとまって出土したが、完形品に近いものは底近くから出土した。南西より)



(2) SD7 土層 (土層からは自然堆積で埋まったと見られる。西より)

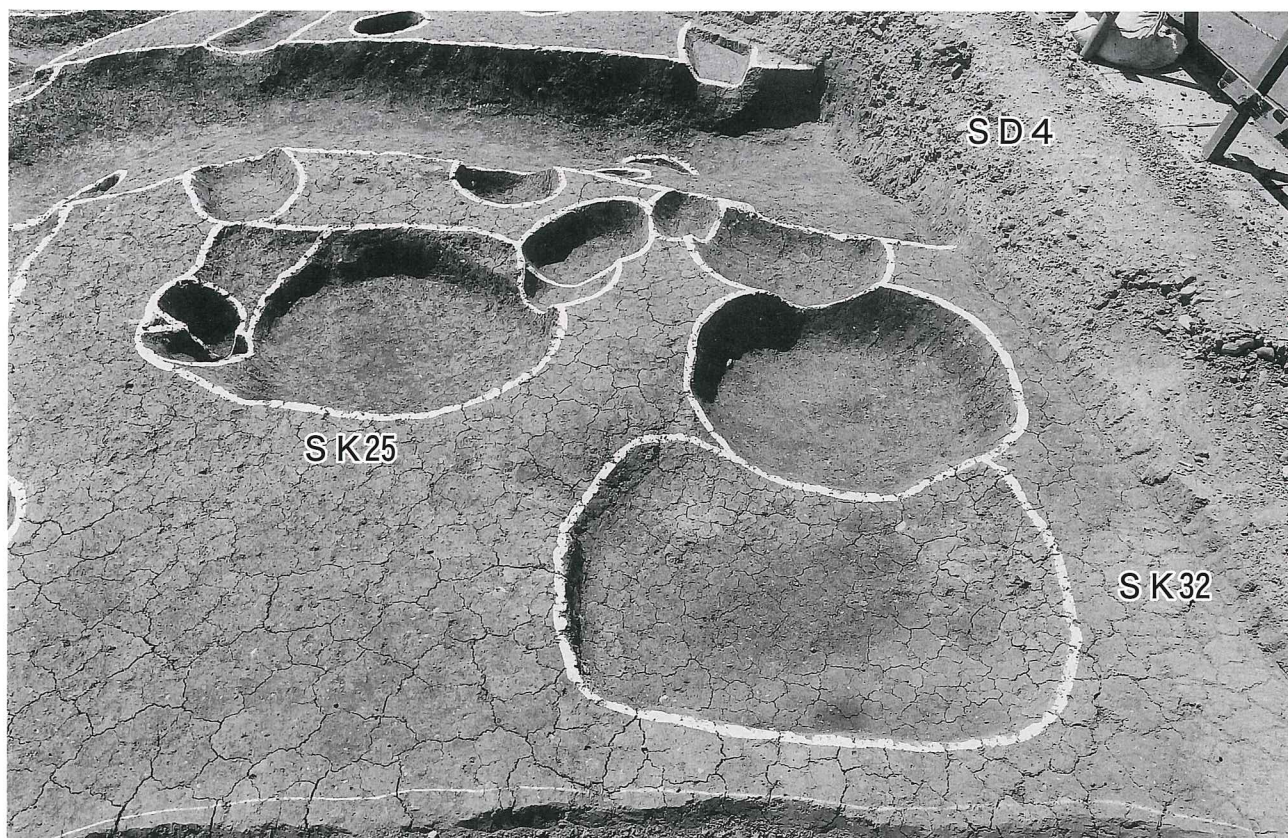


(1) SD7焼土（底で火を炊いたと見られるが、あまり良く焼けていない。南より）



(2) SD8・18

（攪乱で破壊されている部分が多い。遺物はほとんど出土しないため、江戸時代末期の主要排水路として使用された溝であると思われる。西より）



(1) SK25・32

(SK25は弥生時代後期の円形土坑、SK32は鎌倉時代の方形土坑
であると見られる。どちらも少量の土器片が出土した。北より)



(2) SK26

(江戸時代末期の井戸と見られる土坑である。深いため完掘できなかった。北より)



(1) S K27

(S H 2 付近の溝状の土坑で、弥生時代後期の土器片がまとまって出土した。西より)



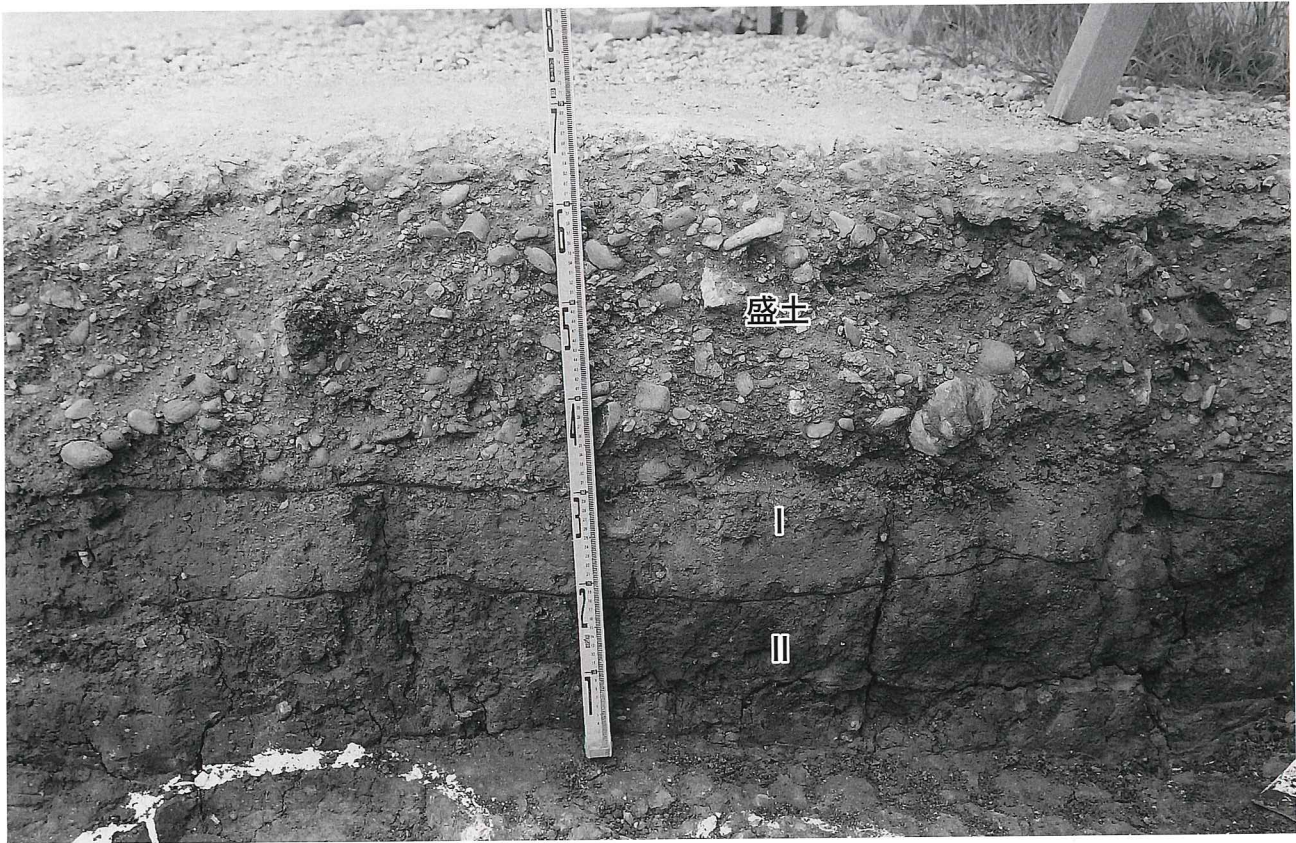
(2) S K28 (弥生時代後期の大型の方形土坑である。攪乱で半分壊されている。南より)



(1) S K30 (弥生時代後期の大型の楕円形土坑である。西より)



(2) S K31 (弥生時代後期の楕円形土坑で、壺の破片が出土した。南西より)



(1) 北壁土層

(厚さ20cmの良好な包含層が見られるが、調査区全体では攪乱が激しく、部分の存在に留まった。南より)



(2) 重機による表土掘削

(包含層の残存部分が少なかったせいか遺構確認面までの表土を掘削した。)



(1) 人力による作業風景 (SD7 付近の調査を行っている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影と写真測量風景



(1) 第78次発掘調査区空中写真全景
 (第71次発掘調査区東北隣の調査区である。左手は竪穴住居が一面見つかっており、
 右手については排水用の溝や大型土坑が集中的に検出されている。上が東で、真上より)



(2) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景
 (弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が集中的に見られる。東より)



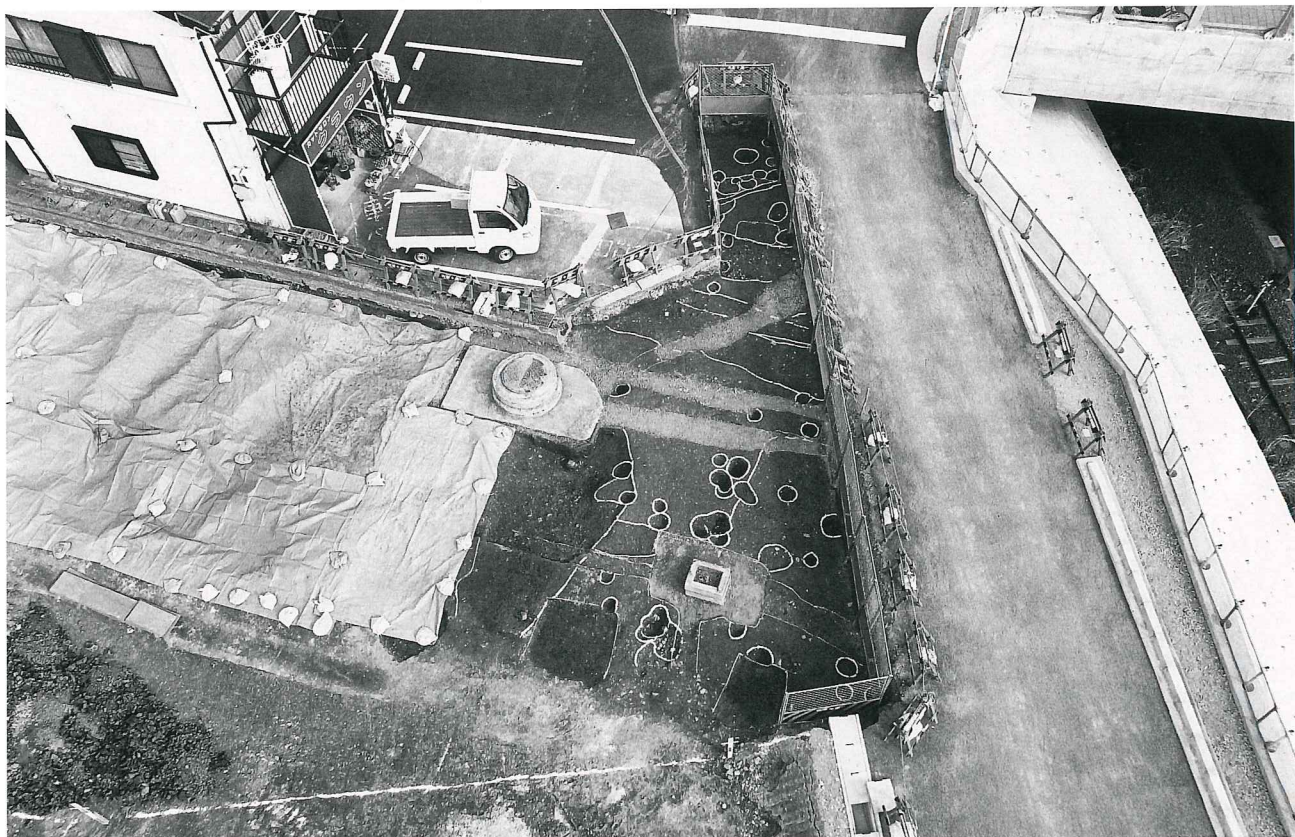
(1) 第78次発掘調査区北半部分空中写真全景
(弥生時代後期は楕円形、古墳時代後期は方形の竪穴住居が検出された。上が西で、真上より)



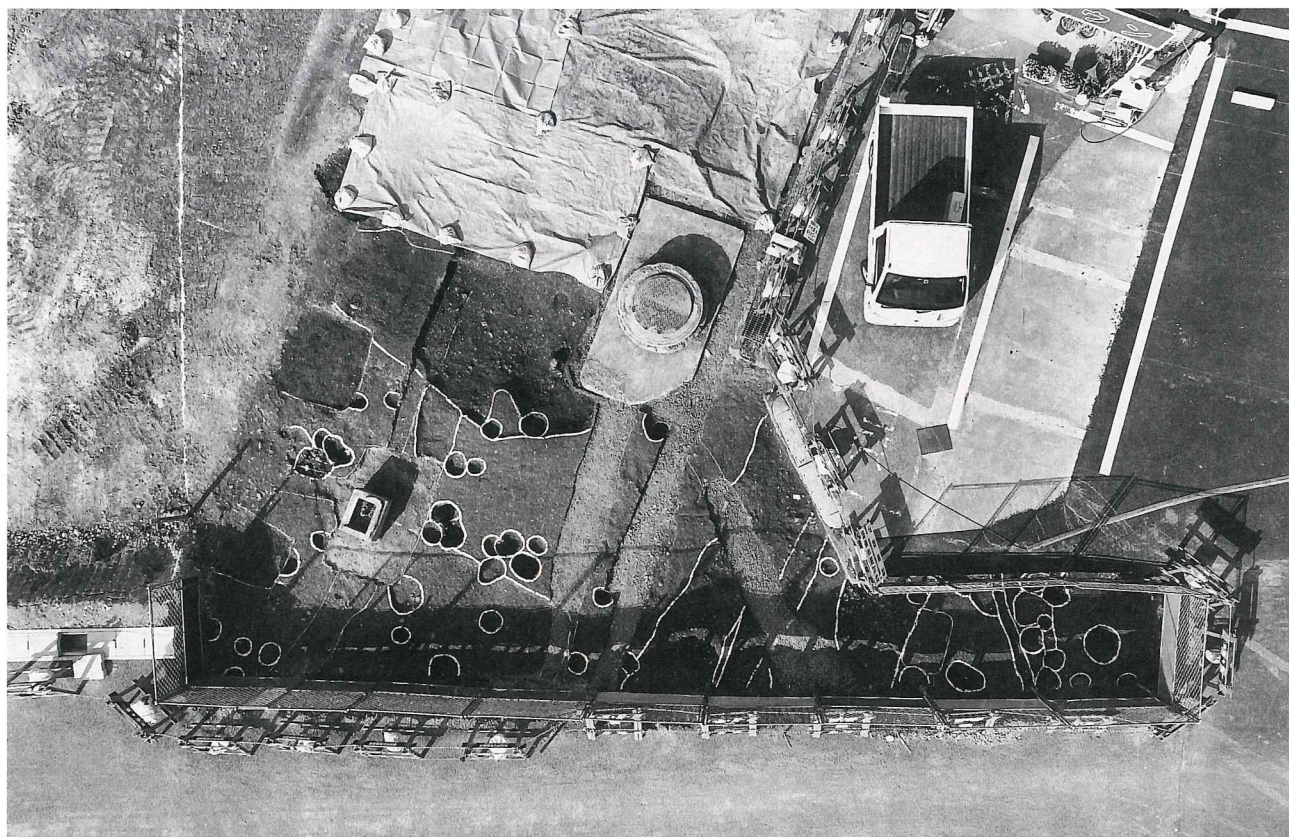
(2) 第78次発掘調査区全景 (集落の中心地域であることが分かる。北より)



(1) 第78次発掘調査区全景
(南側には弥生時代後期と江戸時代末期の排水用の溝が西から東へ走っている。南より)



(2) 第78次発掘調査区南端空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、江戸時代末期の排水用の溝が南北方向に走っているのが分かる。西より)



(1) 第78次発掘調査区南端空中写真全景（上が北で、真上より）



(2) SB2

(弥生時代後期の隅丸方形の竪穴住居である。大半は第31次発掘調査区域に入っている。東より)



(1) S B 2 壁溝土層（板と見られる壁体の痕跡が土層から確認できた。東より）



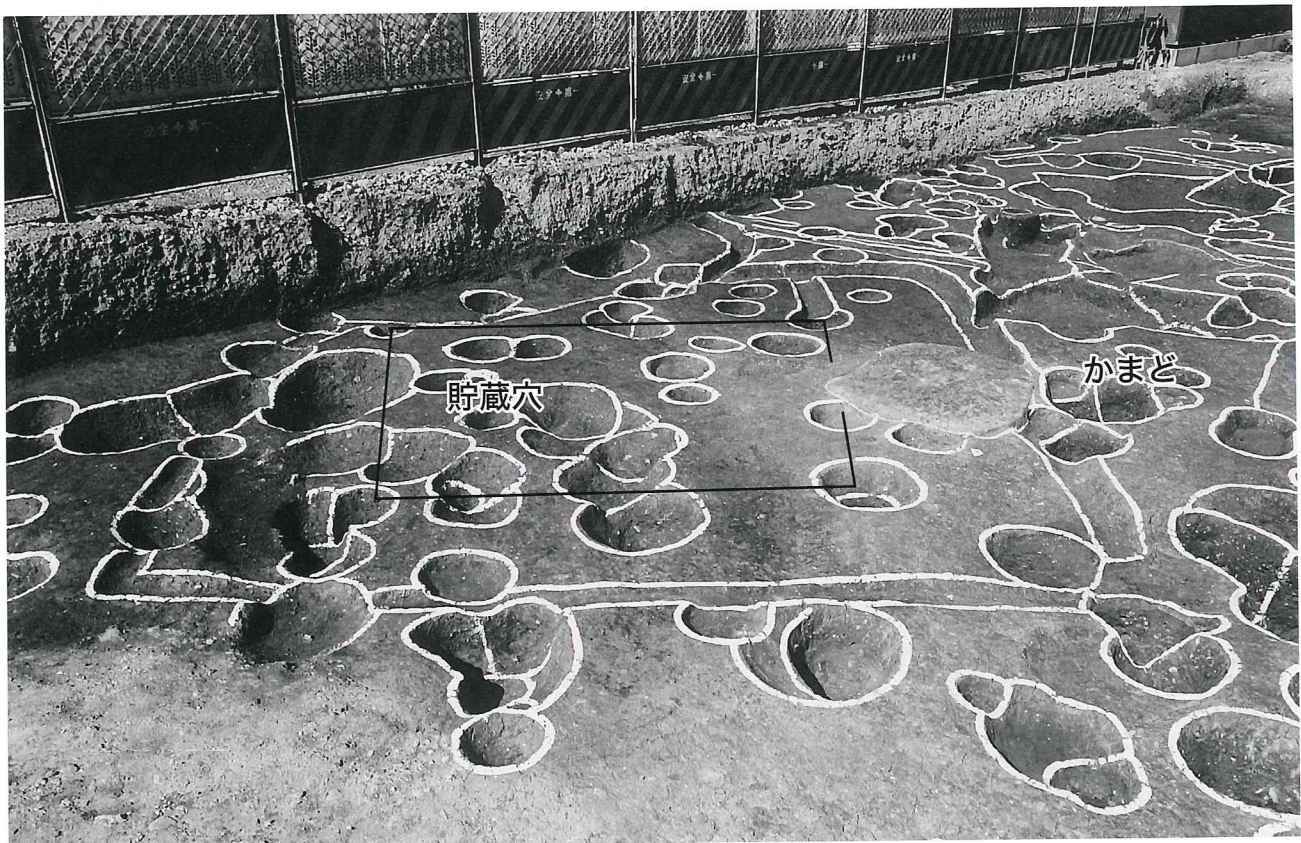
(2) S B 10

（古墳時代後期の方形の竖穴住居である。大半は第31次発掘調査区域に入っている。東より）



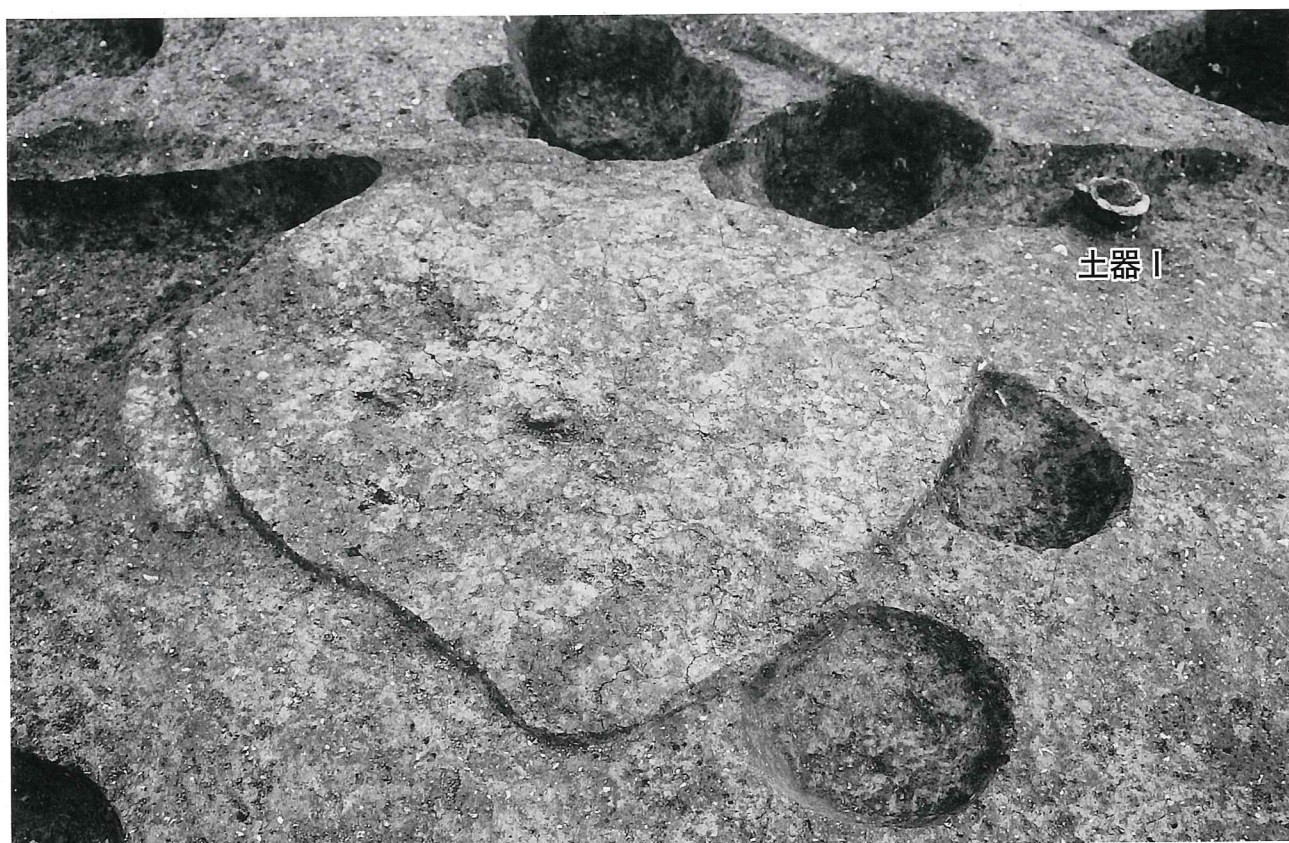
(1) S B16

(古墳時代後期の方形の竪穴住居であるが、半分は調査区外で、保存状況も攪乱のため良くない。かまども攪乱のため破壊されていると思われる。北より)



(2) S B17

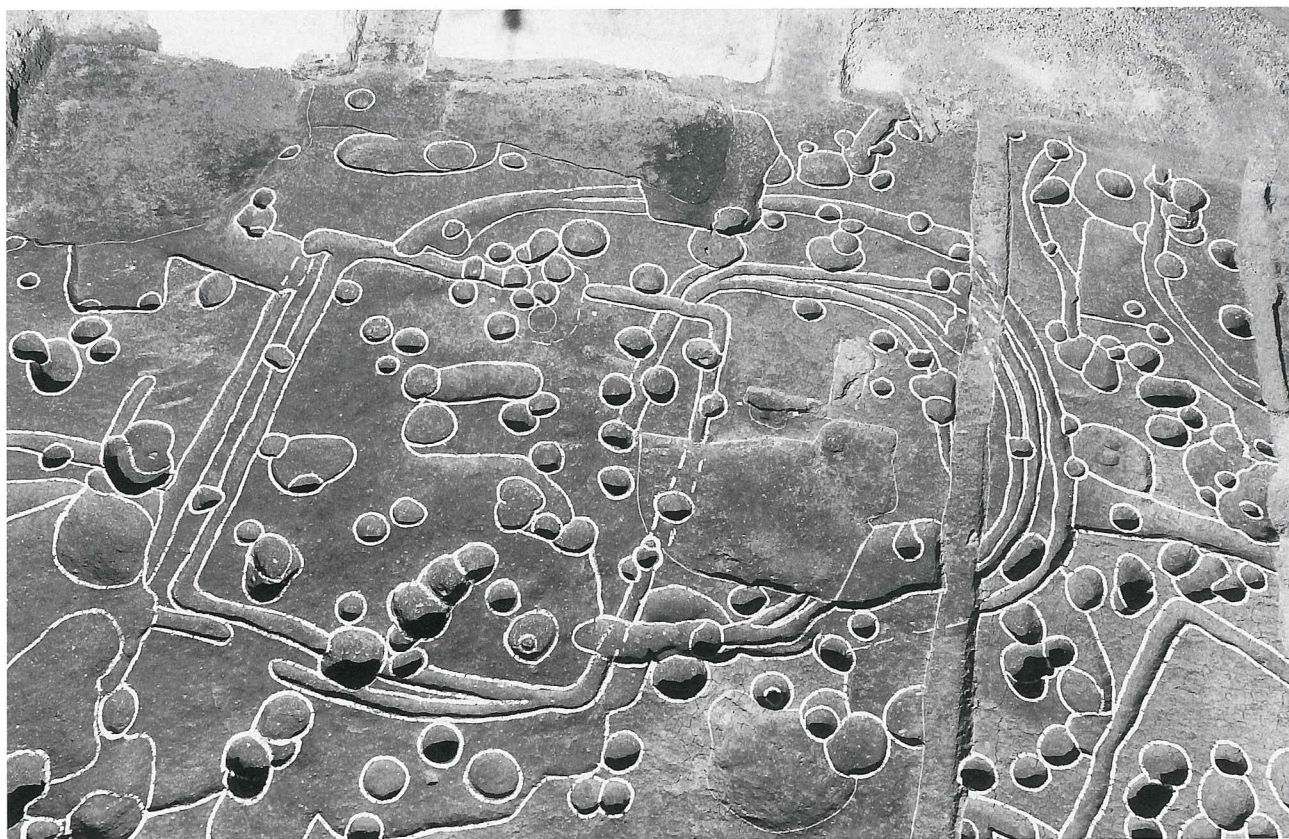
(古墳時代後期の方形の竪穴住居である。北壁にかまど、南壁付近に貯蔵穴が見られる。南東より)



(1) S B17かまど（壊されているため白色粘土と焼土が混ざった状態で検出された。南より）



(2) S B17貯蔵穴（南壁付近に検出された。南より）



(1) S B18・23空中写真
(左手のS B18は古墳時代後期の方形の竪穴住居、右手の
S B23は弥生時代後期の楕円形の竪穴住居である。南より)



(2) S B18・23空中写真
(S B23の西半分は、古墳時代後期のS B18のために壊されている。上が北で、真上より)

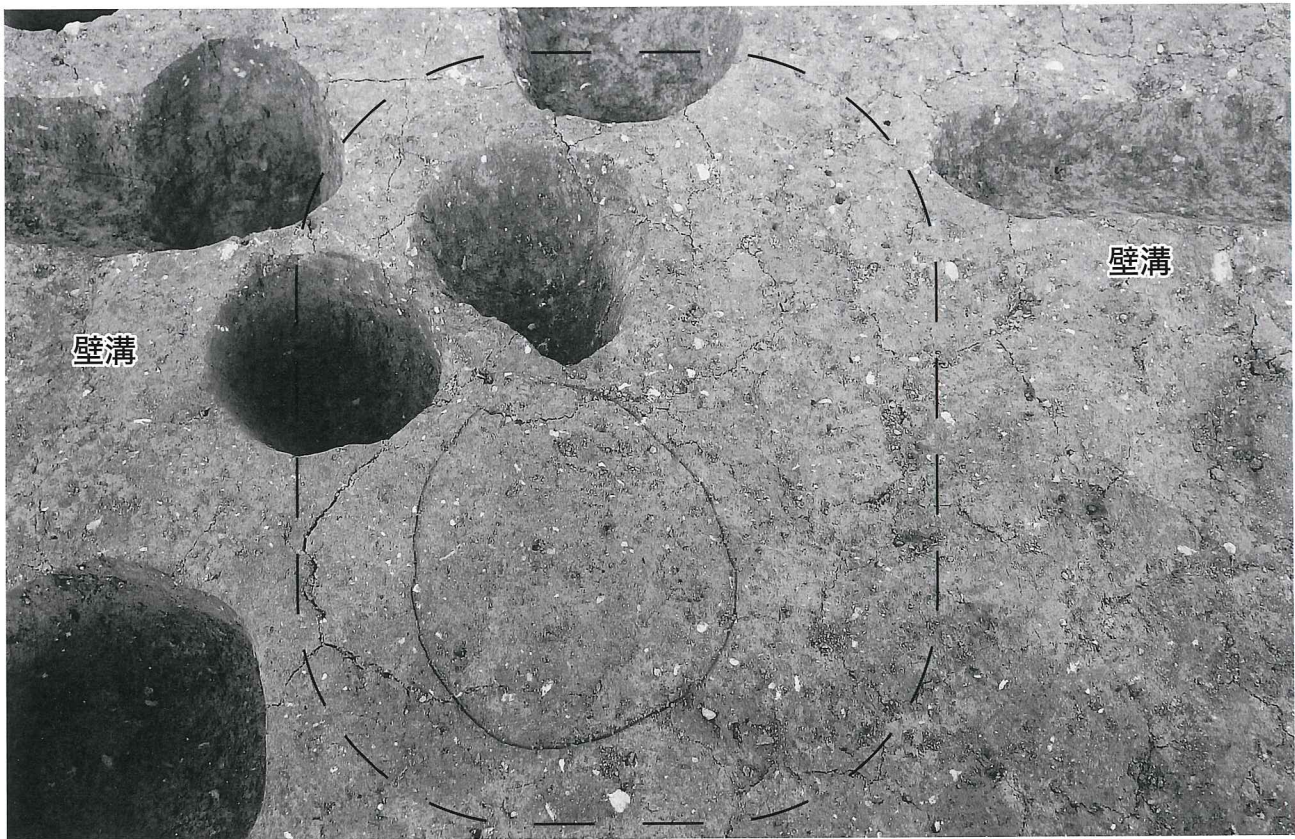


(1) S B18・23 (東より)

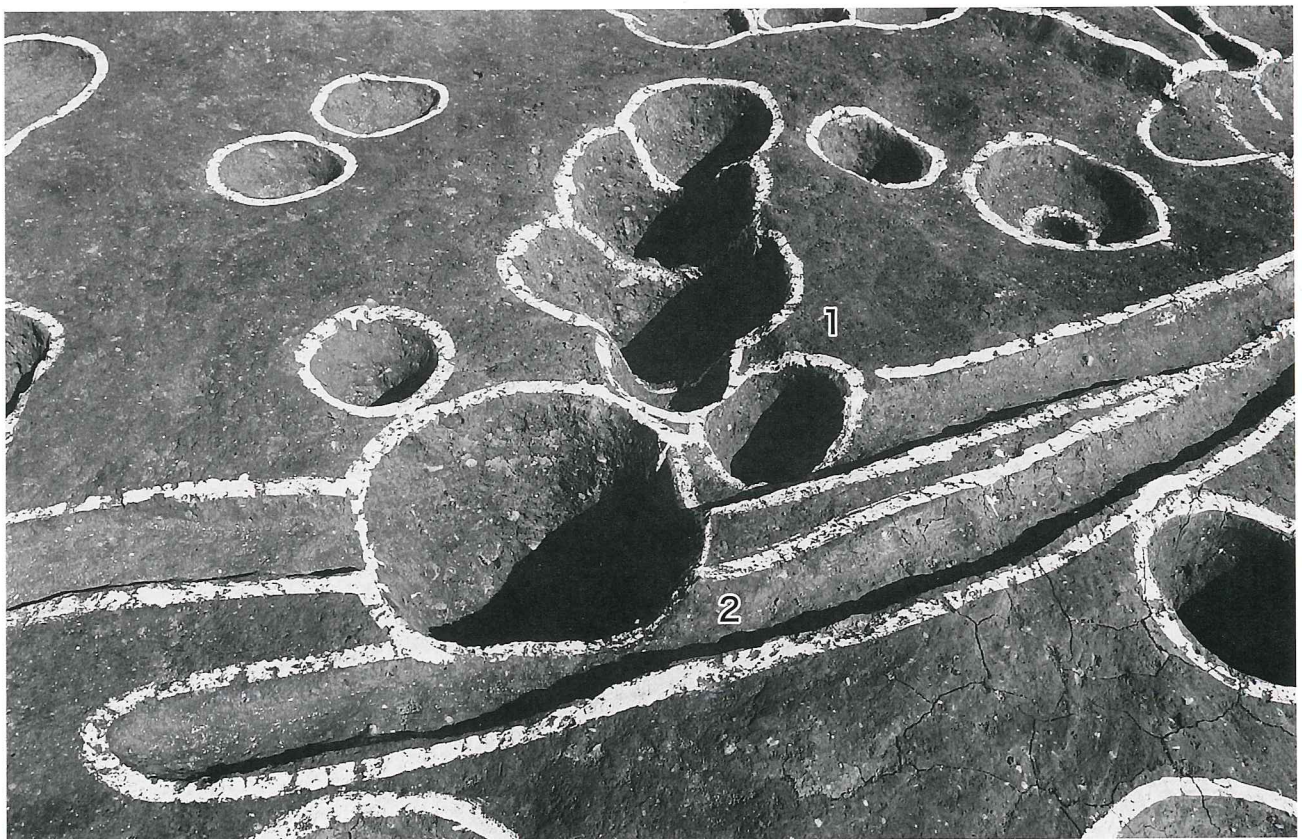


(2) S B18

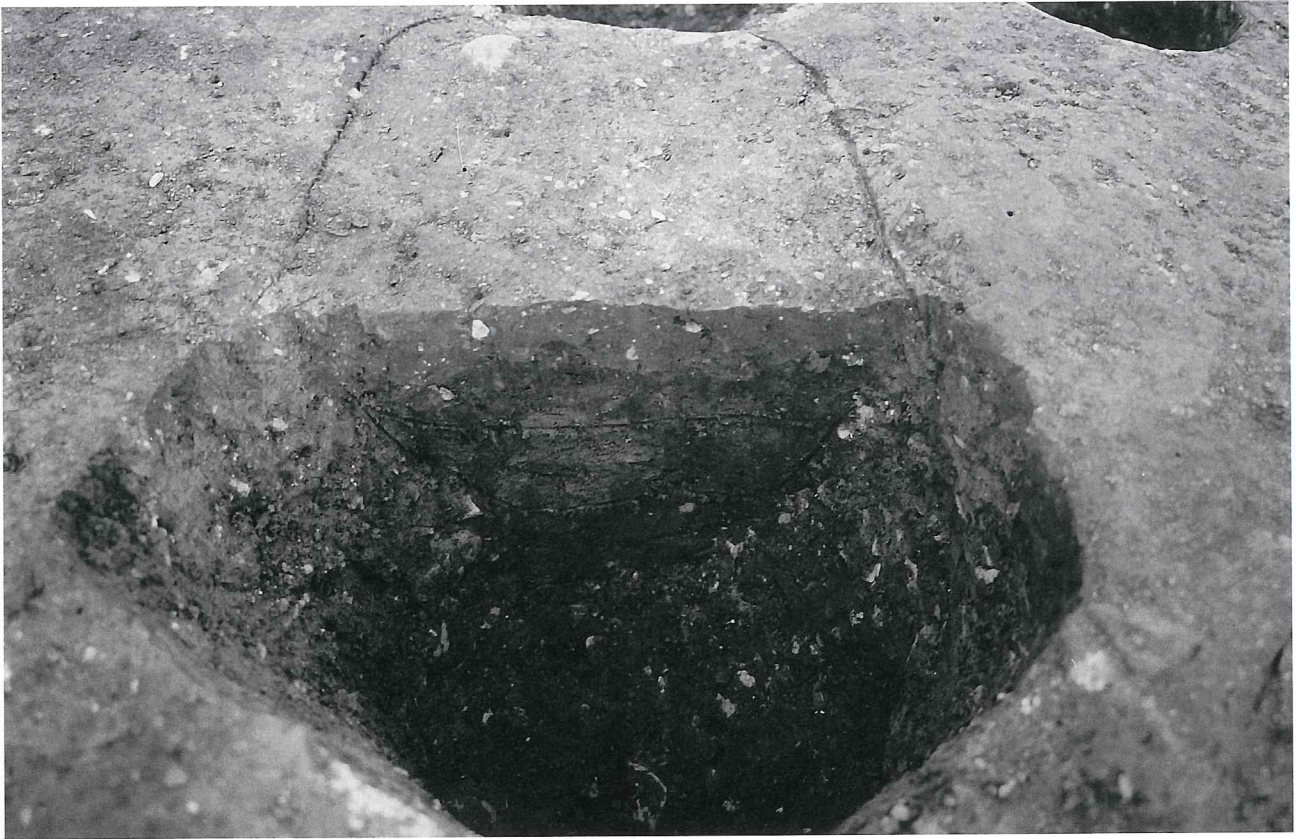
(古墳時代後期の方形の竪穴住居である。北壁にかまど、南壁付近に貯蔵穴が見られる。壁溝から最低2時期の建替えが認められた。南より)



(1) S B18かまど
 (かまど本体は後世の削平のため焚口部分の焼土のみの検出に留まった。
 壁溝はかまど部分では途切れることが判明した。南より)



(2) S B18貯蔵穴 (南壁付近に2基の貯蔵穴が検出できた。南より)



(1) S B18貯蔵穴1土層（人為的に埋められたような土層であった。南より）

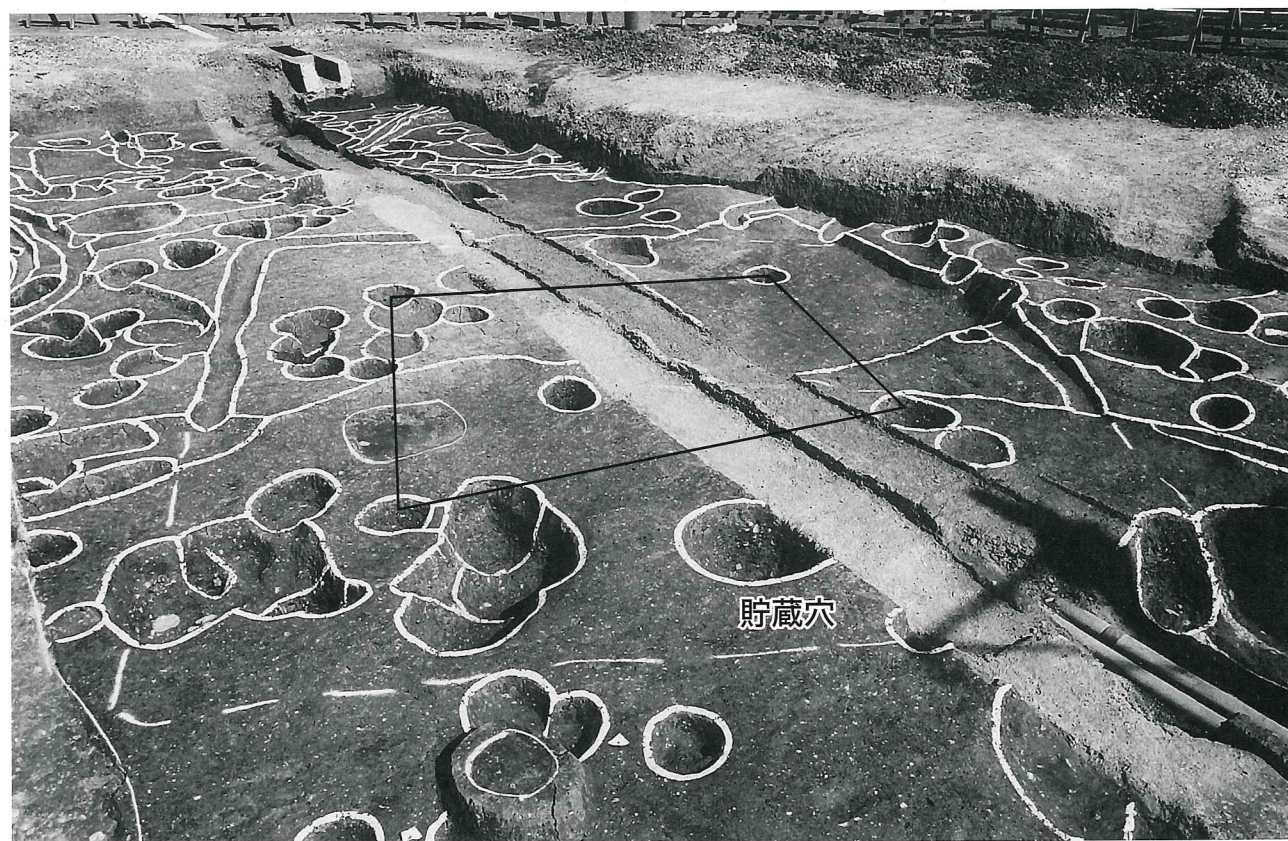


(2) S B20

(弥生時代後期の楕円形の大型の竪穴住居である。攪乱や深い掘方のため形態は今一つ確実でない。南西より)



(1) S B20炉跡
(住居の北側に寄った地床炉で、深い掘方をもつため浮いた状態で検出された。南より)



(2) S B21
(古墳時代後期の方形の竪穴住居である。かまどは攪乱のため失われていた。南より)

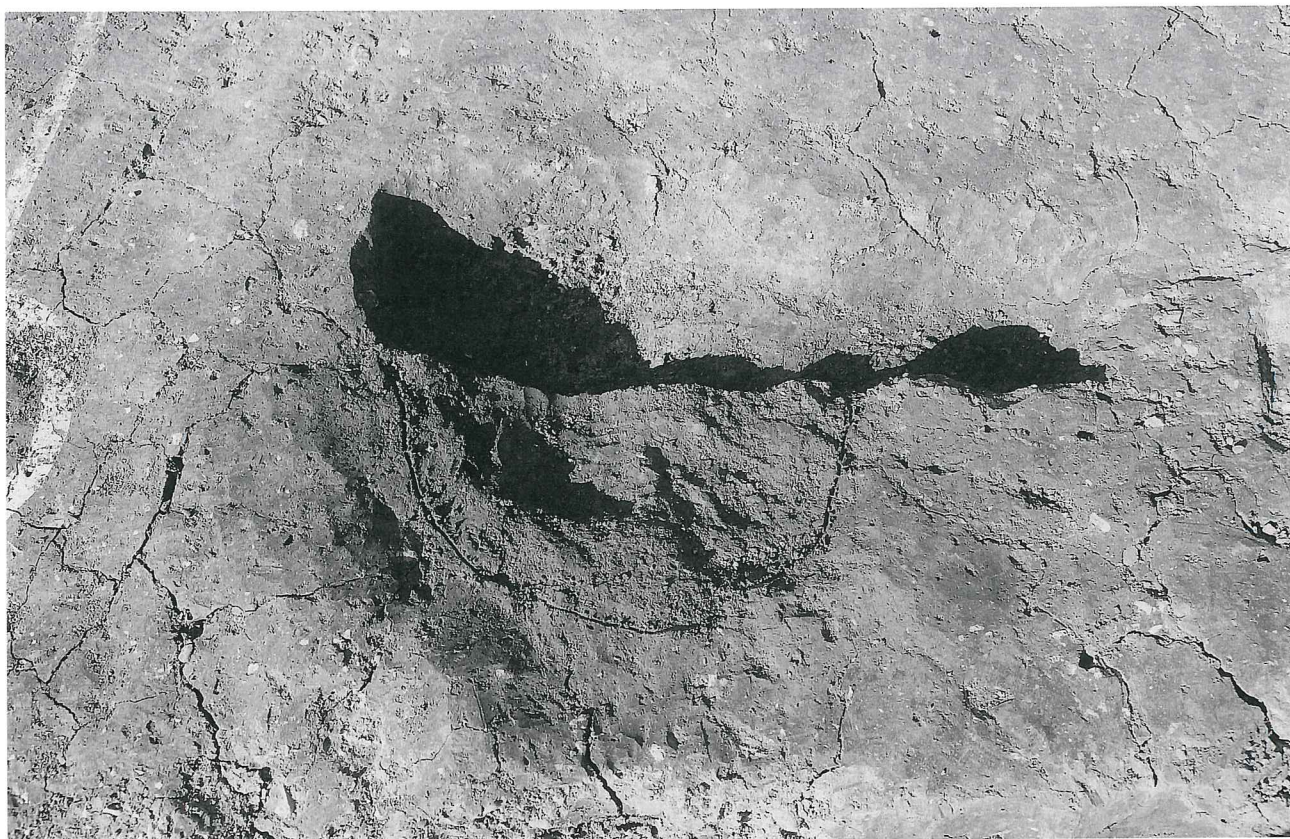


(1) S B21貯蔵穴（南壁付近に貯蔵穴が検出できた。南より）



(2) S B23

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居である。中央に炉跡があり、壁溝から見ると最低4回の建替えがあったと見られる。南より)



(1) S B23炉跡 (住居の中央で検出された地床炉で、北半分は攪乱で失われている。南より)



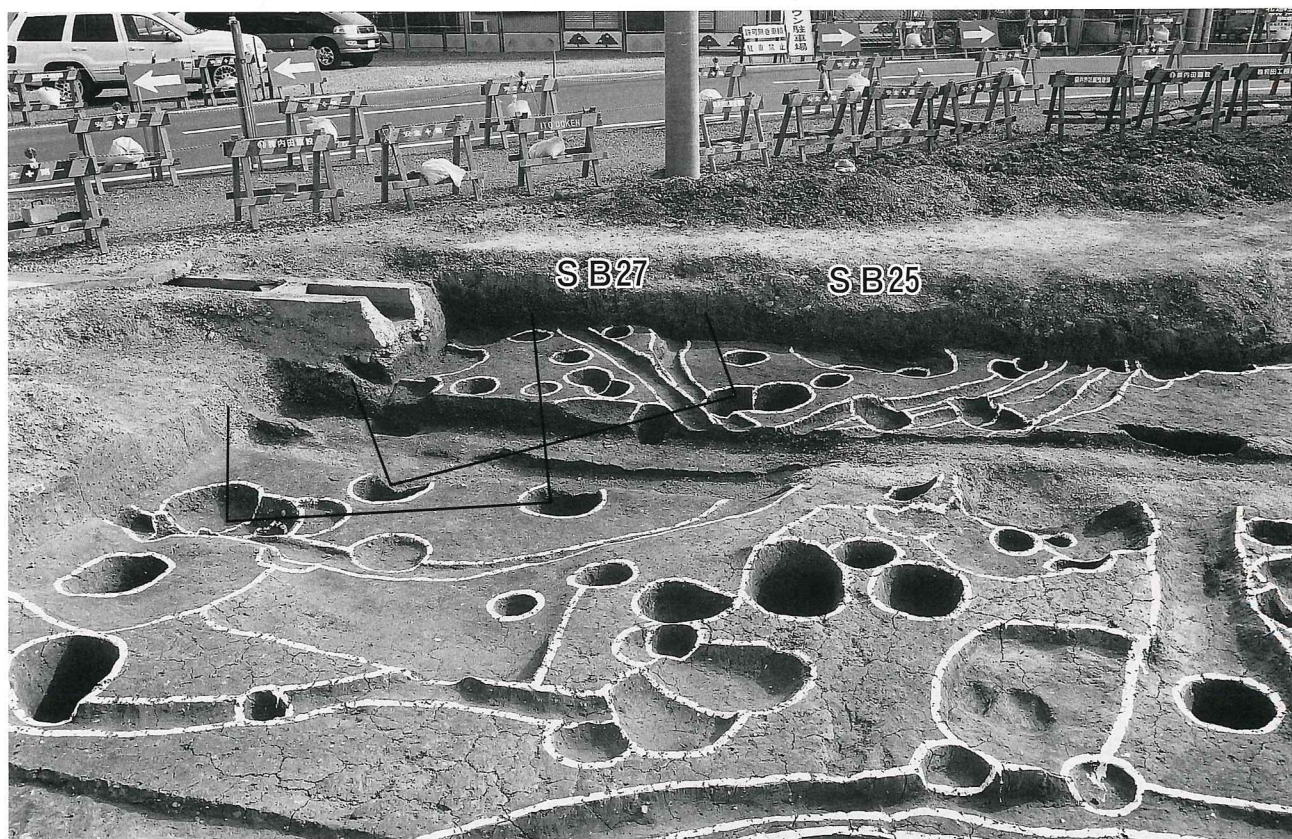
(2) S B24

(弥生時代後期の楕円形の竪穴住居である。土坑などの切合いのため形態は今一つ明らかでない。東より)



(1) S B24炉跡

(住居の南よりで検出された2基の地床炉で、炉跡1は中央が窪み
良く焼けているが、炉跡2はあまり良く焼けていない。南より)



(2) S B25・27

(2棟の弥生時代後期の竪穴住居が重複している。右手のS B25は隅丸方形で、左手の
S B27は楕円形?の竪穴住居と見られる。S B27は壁溝から見ると最低3回の建替え
あるなど、切合いが激しいため、各住居の形態は今一つ明らかなでない。西より)

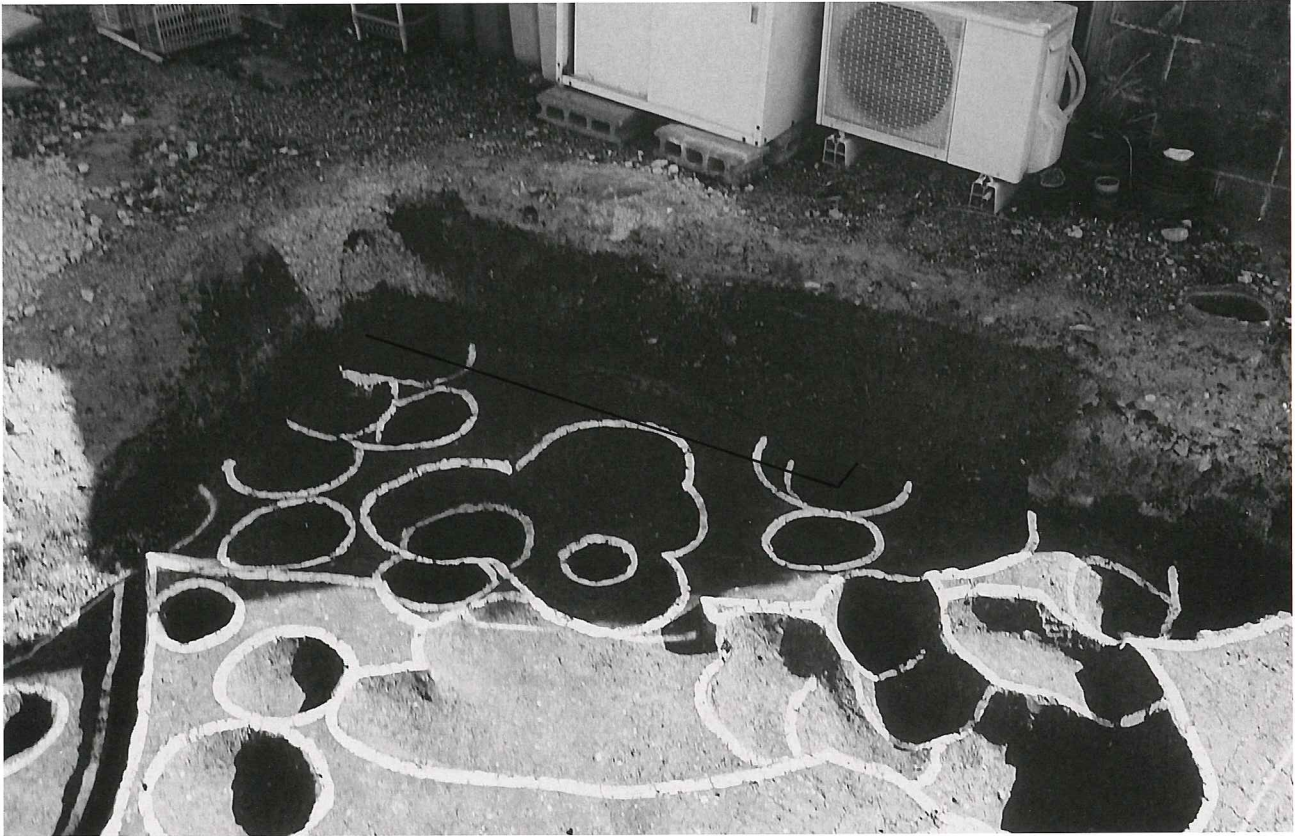


(1) S B26

(大半は調査区外となるが、弥生時代後期の楕円形の竪穴住居であろう。西より)

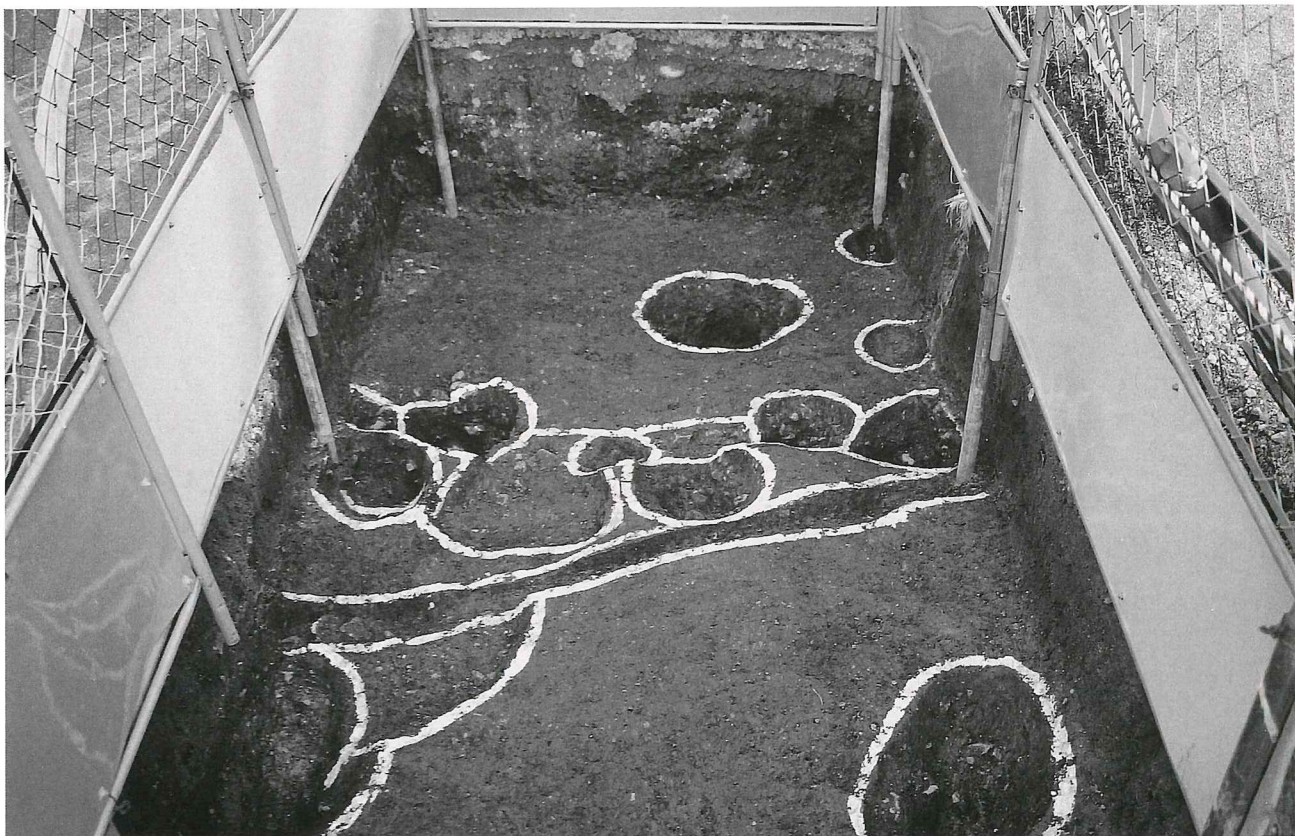


(2) S B26炉跡 (西壁付近に検出され、良く焼けた地床炉である。南より)



(1) S B28

(大半は調査区外となるため全体の形態は良く分からないが、
弥生時代後期の楕円形の竪穴住居となるものであろう。北より)



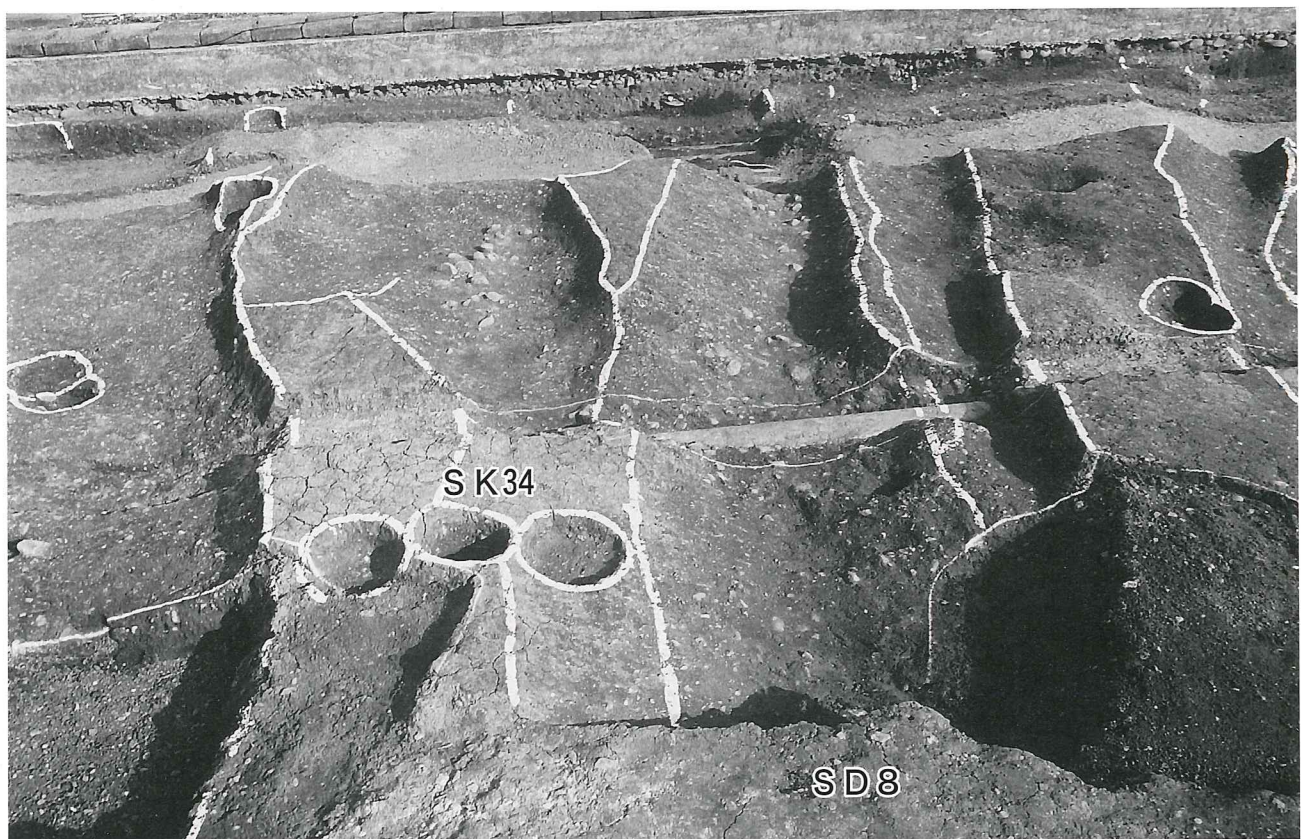
(2) S B52

(ほとんどは第70次-1発掘調査区で検出された住居で、弥生時代後期の竪穴住居である。
深い掘方をもつもので、壁溝から見ると最低2回の建替えがあったと見られる。西より)



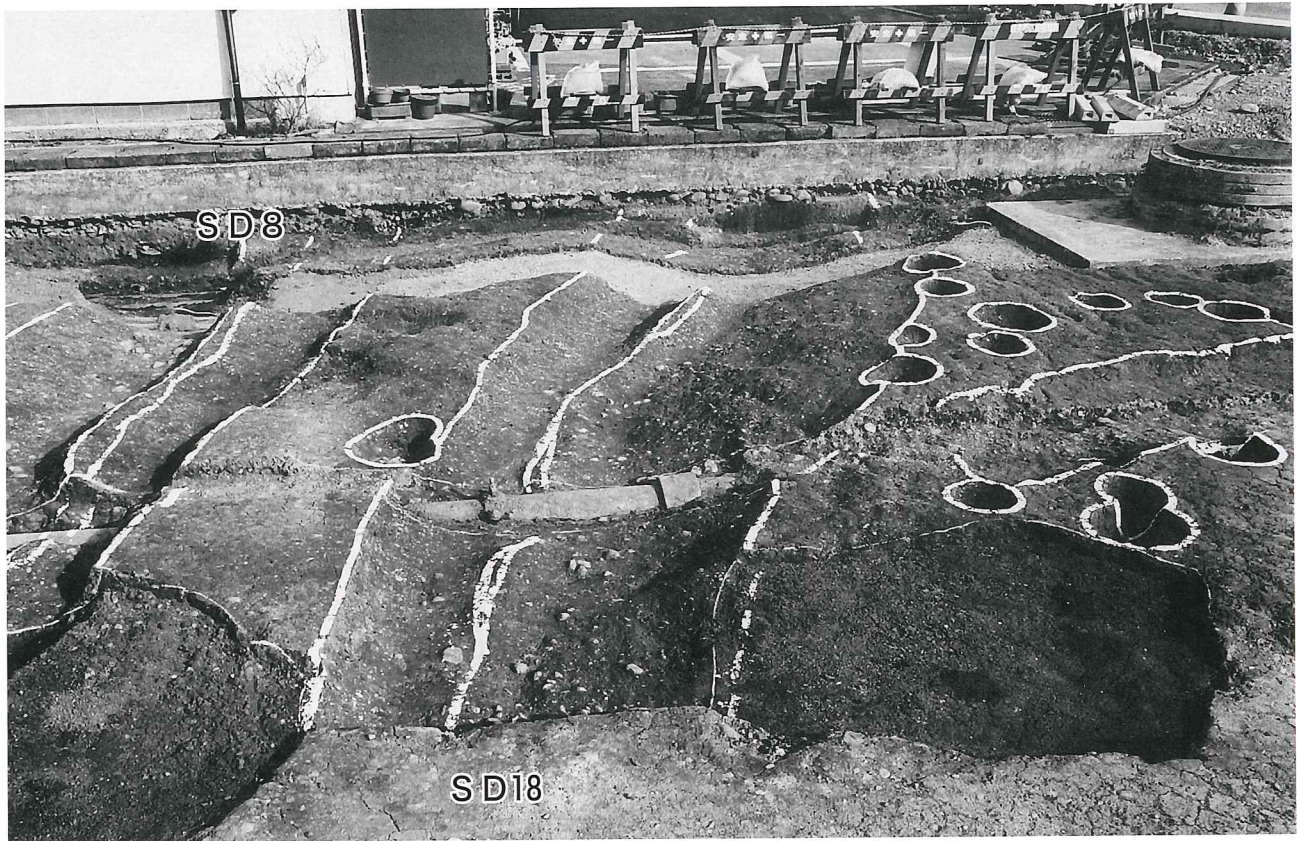
(1) SH4

(SH4は第31次発掘調査区にまたがって検出された古墳時代後期の土間式の掘立柱建物である。南より)



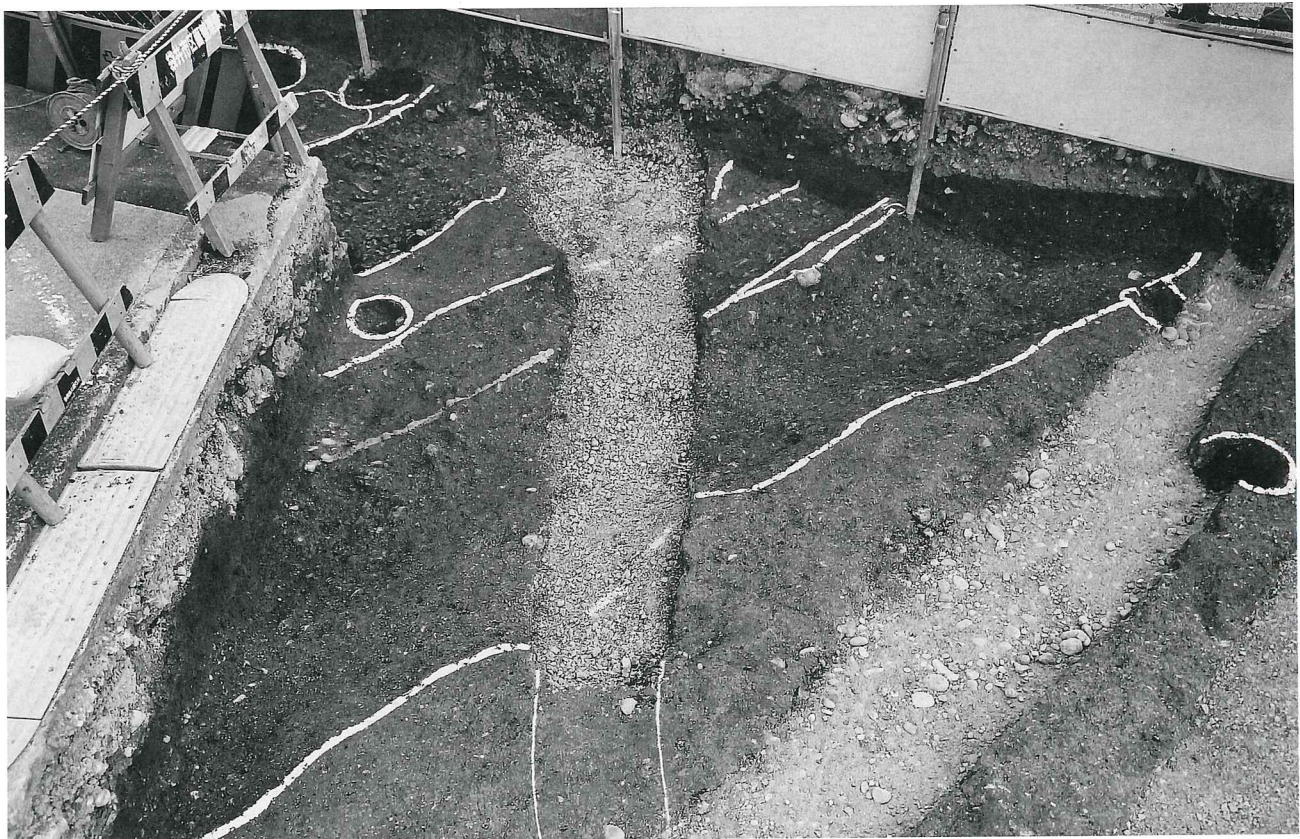
(2) SD8・SK34

(SD8は江戸時代末期の主要幹線排水路であろう。SK34は弥生時代後期の溝状の大型土坑である。土器片がまとまって出土している。西より)



(1) SD18

(SD18はSD8と共に東西方向に走る江戸時代末期の主要幹線排水路になるものであろう。西より)



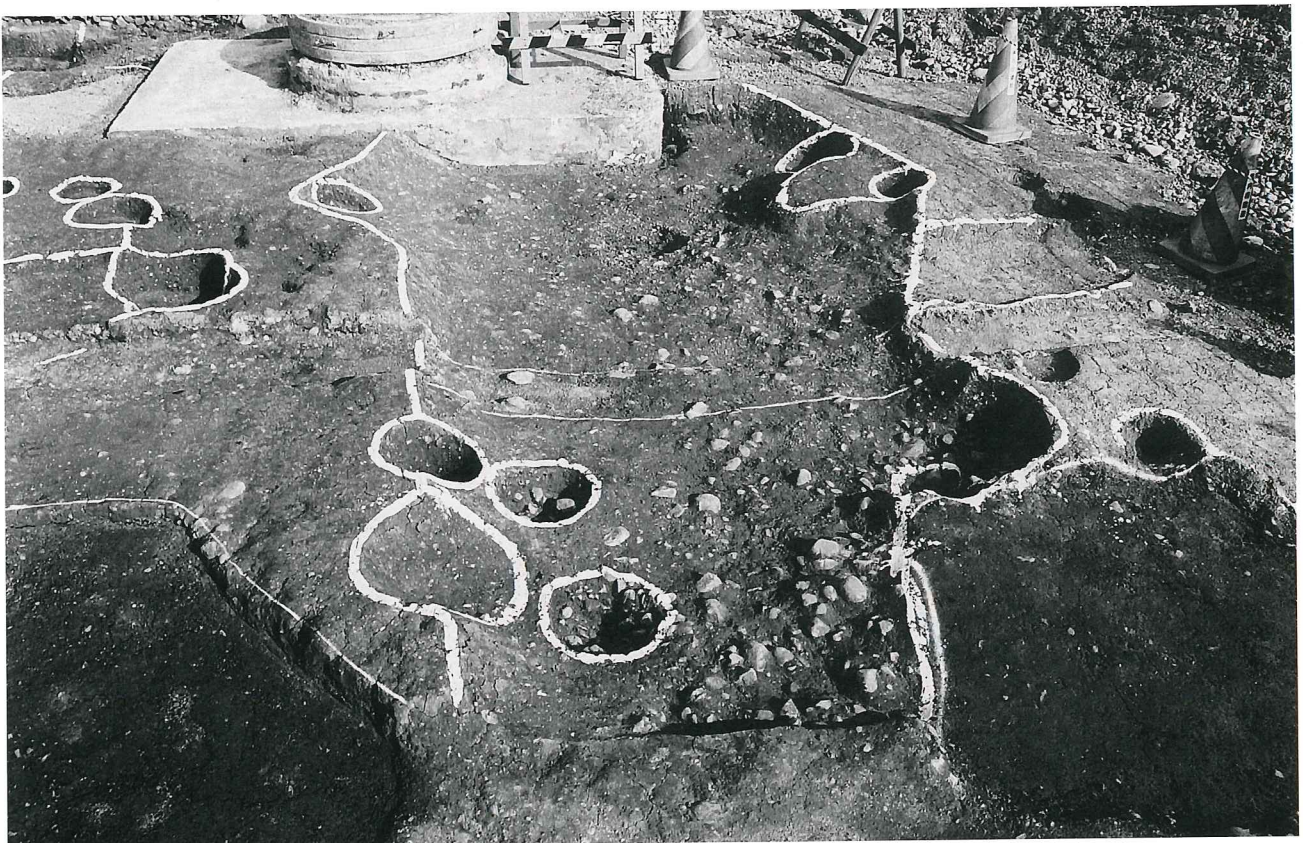
(2) SD19

(SD19はSD8・18とは異なり南北方向に走る江戸時代末期の主要幹線排水路であらう。北西より)



(1) SK30

(弥生時代後期の溝状の大型土坑である。土器片が出土している。西より)

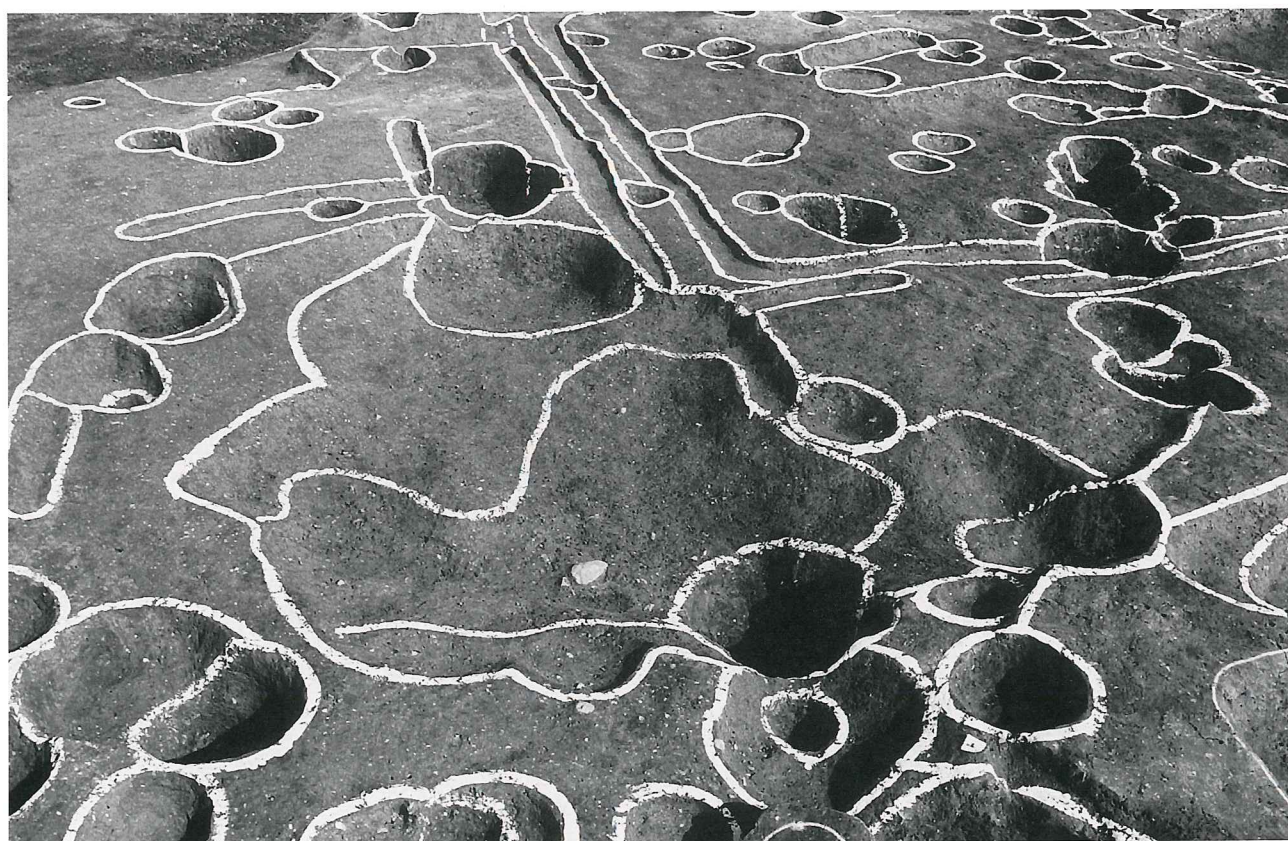


(2) SK33

(弥生時代後期の溝状の大型土坑である。土器片がまとめて出土している。西より)



(1) S K35・S K37
(いずれも弥生時代後期の土坑で、S B 2 付近に位置する。
S K37からは土器片がまとまって出土した。南より)



(2) S K38
(弥生時代後期の不定形の大型土坑である。土器片がまとまって出土している。南より)



(1) 調査区東側南壁土層（厚さ20cmの包含層が全面で確認できた。北より）



(2) 人力による遺構調査（S B17付近の柱穴群を掘削している。）

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ シャシンズハンヘン				
書名		掛之上遺跡66・69・71・78 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書24				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028 ☎0538-23-9269				
発行年月日		2009年3月27日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20080201	1482.0㎡	袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う宅地造成
22216	151			～ 20090326		
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代	竪穴住居	土器・石器	弥生時代中～後期有力集落
			中・後期	掘立柱建物 土坑		
			古墳時代	方形周溝墓	土器(土師器・須恵器)	古墳時代後期有力集落
			初頭・後期	竪穴住居		
				掘立柱建物 土坑		
			奈良時代	掘立柱建物	須恵器	郡衙推定遺跡
			鎌倉～戦国	掘立柱建物	山茶碗・陶磁器	
			近世	土坑	陶磁器・かわらけ	
				区画溝		

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書24

掛之上遺跡 66・69・71・78

— 写真図版編 —

発行年月日 2009年3月27日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2